HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	西フリジア語の音韻と正書法 (2)
Author(s)	清水, 誠
Citation	北海道大學文學部紀要, 44(2), 43-111
Issue Date	1995-12-22
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/33659
Type	bulletin (article)
File Information	44(2)_PL43-111.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学部紀要 44-2 (1995)

西フリジア語の音韻と正書法 (2)

清 水 誠

Lûdlear en stavering fan it Westerlauwersk Frysk (2)
(The Annual Report on Cultural Science 44-2 (No.86). The Faculty of Letters. Hokkaido University. Sapporo. Japan. 1995. ISSN 0437-6668)
SHIMIZU Makoto

III 子音 (it bylûd)

§11 はじめに

子音については以下の点に注意を要する。

閉鎖音 (de ploffer/de plosyf) と摩擦音 (de rûzer/de frikatyf) を合わせて障害音 (de obstruint) と呼ぶが，障害音の配列には制約がある (音素配列論的制約 fonotaktyske restriksjes)。まず，有声摩擦音は語頭音としては現われず，語末音では閉鎖音と同様に無声化するので，語中音に限られる。そのさい，特殊な例外を除いて，先行する母音は長母音か二重母音かのどちらかである。無声摩擦音には位置による制限はないが，語中音として現われるときには，先行する母音はほとんど短母音である。このように，摩擦音の有声・無声の現われかたには，かなりはっきりした区別がある。古くは，両者の現われる位置は相補分布的に決まっており，異音の関係にあった。閉鎖音には，語頭と語中で現われる場合，有声か無声かの制限はない。また，障害音の連続は有声か無声かのどちらかに統一されている必要がある。以上の制約は同化 (§19) とそれに類似した現象を扱うさいに有効である。

sj [ʃ], zj [ʒ] は音韻論的にはそれぞれ /s/ と /j/, /z/ と /j/ の連続であり, [sj], [zj] としたほうが音韻規則の説明に都合のいいこともあるが, じっさいの発音は [ʃ], [ʒ] である。この発音は「個人的な変種として稀に認められるにすぎない」(Cohen et al. 1978²: 134) というものではなく, 今日ではきわめて一般的になっている。本書では教育的な効果も考慮して [ʃ], [ʒ] の表記を採用する (Sjölin 1988: 110)。破擦音 [ts] (日本語のツの音) は音韻論的には /t/ と /s/ の連続である (Cohen et al. 1978²: 134)。[ts], [tʃ] は歴史的にフリジア語群に共通の特徴である口蓋化 (de palatalisearring) の結果であるが, 今日では単独の子音 (音素) とは認めがたい。しかし, じっさいの発音では, 次の語の語頭子音は注意して区別する必要がある。

tienen [tíənən] (← tien [tiən])「小枝 (複数形)」

tiennen [tjÍnən]「小枝の」

tsienen [tsiənən] (← tsien [tsiən])「10 (変化形)」

tsjinnen [tʃÍnən] (← tsjinje [tʃÍⁿjə])「仕えた (過去形複数)」

半母音 /j/, /w/ は厳密には子音に分類できないが, 説明の都合上, ここで扱う。本書ではじっさいの発音を考慮に入れて, これを母音 [i], [u] と摩擦音 [j], [w] に分けて表記する。

個々の子音にはさまざまな現象がある。まず, 有声の障害音 (閉鎖音と摩擦音) はドイツ語やオランダ語のように語末音で無声化するが (§ 14), これは西フリジア語では 20 世紀になってからの現象で, おそらくオランダ語の影響によると考えられる。舌先のふるえ音 r [r] はオランダ語の口語などと違って母音化しないのが正式な発音とされ, 歯茎音の前では, たとえばスウェーデン語や一部, ノルウェー語でそり舌音になるのにたいして, 西フリジア語では脱落する (§ 15)。また, 部分的にオランダ語と共通する子音の同化現象 (逆行同化) が見られる (§ 19)。ただし, 西フリジア語に順行同化を認めることには問題がある。あいまい母音 [ə] とそれに後続する鳴音 (de sonorant, 鼻音ないし流音) が同一音節にあると, 鼻音ないし流音が音節核 (音節主音, エ. nucleus) になってあいまい母音が脱落する音節化 (de syllabisearring) の現象が起こることがある (§ 20)。

§12 子音の種類

(1) まとめ

子音には次の17種類があり，さらに半母音として /j/, /w/ の2種類がある。g [g]，sj [ʃ]，zj [ʒ]，ts [ts] は単独の子音（音素）とはみなされない。表ではカッコ内（〈 〉）につづり字を添えて示す。ただし，同化とそれに類似した現象（§19）が生じる場合は除いてある。正書法上の開音節と閉音節の区別については§24(1)を参照。「語頭，語中，語末」は音節，ないし合成語や派生語をつくる以前の単一語を対象とする。

		両唇音	唇歯音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	無声	p〈p/b 語末〉		t〈t/d 語末〉		k〈k〉	
	有声	b〈b〉		d〈d〉		(g〈g〉)	
摩擦音	無声		f〈f〉	s〈s〉	(ʃ〈sj〉)	x〈ch〉	h〈h〉
	有声		v〈w/v〉	z〈z〉	(ʒ〈zj〉)	γ〈g〉	
(破擦音	無声)			(ts〈ts〉)			
鼻音		m〈m〉		n〈n〉		ŋ〈ng〉	
流音	側音			l〈l〉			
	ふるえ音			r〈r〉			
半母音：		w〈w など〉			j〈j など〉		

① g [g] は g [γ] の一種（異音）である。

② sj [ʃ] は /s/ と /j/ の連続，zj [ʒ] は /z/ と /j/ の連続と解釈される（§11参照）。

③ ts [ts] は /t/ と /s/ の連続と解釈される（§11参照）。

④ [j] と [w] は「割れ」（§9）によるいわゆる「のぼり二重母音」([jɪ], [jɛ]；[wo], [wa]；[jø]) の前半部でも出る。

⑤ [w] は両唇音のかわりに唇軟口蓋音とみなされて，上の表で軟口蓋音と声門音のあいだに置く扱いをされることもある（Tiersma 1985：24)。この音は二重調音によるもので，両方の性格があるが，

本書では唇歯音［v］との関連（例　doarren［dwárən］～［dvárən］「ドア（複数形）」）を重視して両唇音の位置に置く。

(2)　解説と用例

［p］：ふつう気音（de aspiraasje）を伴わず，無気音に近い（これはオランダ語と同じであり，ドイツ語とは異なる。［t］と［k］についても同様）。

①　p：

piip［pi:p］「パイプ」　　boppe［bɔ́pə］「(..の）上に」

②　b：語末。

krab［krap］「カニ」

［b］：語末では出ない。

b：

bern［bɛ:n］「子供」　　libben［lÍbən］「生命；生きている」

［t］：ふつう気音を伴わず，無気音に近い。

①　t：

wetter［vɛ́tər］「水」　　ljocht［ljɔxt］「光」

②　d：語末。

tiid［ti:t］「時間」

［d］：語末では出ない。

d：

dyk［dik］「堤防，道」　　middel［mÍdəl］「手段」

［k］：ふつう気音を伴わず，無気音に近い。

k：

koken［kɔ́:kən］「台所」　　lokkich［lɔ́kəx］「幸運な」

lok［lok］「幸運」

［f］：語中では無声子音に隣接していないかぎり，長母音と二重母音の直後では出ない。

①　f：

Fries [friəs]「フリジア人」　koffer [kõfər]「トランク」
liif [li:f]「体」

② v：最近のオランダ語からの外来語。
universiteit [ynifɛrsitɛ́it]「大学」

③ 次の語の f は発音しない。
ôf [ɔ:]「(..から) 離れて」　oft [ɔt]「..かどうか」
⇔ of [ɔf]「あるいは」

[v]：下唇と上歯で出す有声の摩擦音。語末，および語中で短母音の直後では出ない (③を除く)。

① w：語頭。
waar [va:r]「天気」　wrâld [vrɔ:t]「世界」

② v：語中。
fervje [fɛ́rvjə]「染める」　love [lõ:və]「ほめる」

③ 次の語では例外的に語中，語末で w とつづる。
ik ha(w) [ha(v), ha(f)]「私は持っている」
hawwe [hávə]「もっている (不定詞)」

④ w [w] の直前では脱落することがある (Cohen et al. 1978[2]：127)。
woarst [(v)wast]「ソーセージ」

[s]：語中では無声子音に隣接していないかぎり，長母音と二重母音の直後では出ない。
s：
suster [sǿstər]「姉妹」　flesse [flɛ́sə]「びん」
tsiis [tsi:s]「チーズ」

[z]：語頭と語末では出ない。語中の短母音の直後では稀。

① z：
biezem [bíəzəm]「ほうき」　lêze [lɛ́:zə]「読む」

② 次の語は例外的に語中の短母音の直後で z [z] を含んでいる。
sizze [sÍzə]「言う」　dizze [dÍzə]「この，これ」
lizze [lÍzə]「横たわっている，横たえる」

この3語には sizze [sé:zə], dizze [dé:zə, dÍsə], lizze [lé:zə] という発音もある (Boersma/Van der Woude 1981[2]：60)。

③ s：最近の外来語。

nasaal [nazá:l]「鼻音の」 fisioen [fiziúən]「幻想」

[x]：[k] を発音する喉の位置で出す無声摩擦音。ドイツ語の ach [ax]「ああ」の音に対応する。語頭では出ない。h [h] との区別に注意。

① ch：

berchje [bɛ́rxjə] (← berch [bɛrx])「山 (縮小形)」

haachje [há:xjə] (← hage [há:γə])「生け垣 (縮小形)」

lichem [lÍxəm]「体」 rache [ráxə]「わめく」

② '[x]＋[s]' は摩擦音の連続を避けてドイツ語のように [ks] となることがある (異化, §18(1))。ただし, 義務的ではない。

leechst [le:xst, le:kst]「もっとも低い」(← leech [le:x]「低い」)

☞ ドイツ語の ich [Iç]「私(主格)」や日本語のヒのような無声硬口蓋摩擦音 [ç] にはならない。

[γ]：ch [x] の有声音。語頭, 語末, および語中でアクセントを持つ音節のはじめでは出ない。

g：

tige [tí:γə]「とても」 bergje [bɛ́rγjə]「救助する」

haagje [há:γjə]「..の気に入る；..で垣根をめぐらす」

☞ 以上6種類の摩擦音では, 本来, 有声と無声の区別は位置によって相補分布的に次のように決まっており, 有声摩擦音と無声摩擦音は異音の関係にあった (Tiersma 1979：154)。

無声摩擦音：語頭, 語末, 短母音の直後, 無声子音の直前・直後

有声摩擦音：長母音と二重母音の直後, 有声子音の直前・直後。

今日ではとくに語中でこの区別は完全ではなくなっているが, 音の配列にかんする制約としては有効である場合が多い。

[h]：ほっとしたときなどに深くため息をつくときに出る音。ch [x] よりも喉の奥で発音し, この音とははっきり区別する。とくに hi- では [ç] や日本語のヒの音にならないように注意。語頭のみ。

① h：

hichte [hÍxtə]「高さ」　hiem [hiəm]「屋敷，農場」

② [j]，[w] の直前では脱落する。

hier [hiər]「毛」－hierren [jÍrən]「毛（複数）」

hoed [huət]「帽子」－huodsje [wótʃə]「帽子（縮小形）」

hearre [jɛ́rə]「聞く」　hoanne [wánə]「雄鶏」

③ j の直前の h の文字は発音しない。

hjerring [jɛ́rIŋ]「ニシン」　hjoed [juət]「今日」

hjir [jIr]「ここ」

[m]：

① m：

mem [mɛm]「母」　namme [námə]「名前」

② 直前のあいまい母音 [ə] と同一音節にある場合には，音節化(§ 20)を引き起こすことがある。

[n]：

① n：

nij [nɛi]「新しい」　allinne [ɔlÍnə]「ひとりで」

soan [soən]「息子」

② 直前の母音が鼻音化（§ 10）を起こすときには消える。

wenje [vɛ́ⁿjə]「住む」　meunster [mǿ:ⁿstər]「大聖堂」

③ 直前のあいまい母音 [ə] と同一音節にある場合には，音節化(§ 20)を引き起こすことがある。

[ŋ]：語頭では出ない。

① ng：

jong [joŋ]「若い」　jonge [jóŋə]「男の子」

② nk [ŋk]：jonkje [jóŋkjə]（← jonge）「坊や（縮小形）」

③ 直前のあいまい母音 [ə] と同一音節にある場合には，音節化(§ 20)を引き起こすことがある。

[l]：オランダ語と同様に，語頭と前舌母音の直前ではいわゆる「明るい

l」に近いが，そのほかはいわゆる「暗いl」である。

① l：

leppel［lɛ́pəl］「スプーン」　kelder［kɛ́ldər］「地下室」

bal［bɔl］「球」

② âld，âlt のlは発音しないことが多い。

âld［ɔ:t］「古い」　kâld［kɔ:t］「寒い，冷たい」

kâlt［kɔ:t］「歓談」

ただし，spâlt［spɔ:lt］「割れ目」

③ 次の語のlはふつう発音しない（§17(1)(c)）。

do silst［sIst］（← sille［sÍlə］）「君は..だろう」

do wolst［vost］（← wolle［vɔ́lə］）「君は..したい」

④ アクセントのある音節では，lの直後に歯茎音以外の子音が続く場合，中間にあいまい母音［ə］が挿入されることがある。

film［fIl(ə)m］「フィルム，映画」（本書では［fIlm］と表記する）

⑤ 直前のあいまい母音［ə］と同一音節にある場合には，音節化（§20）を引き起こすことがある。

［r］：舌先をふるわせる。オランダ語の口語の影響で口蓋垂のふるえ音や摩擦音などの発音も聞かれることがあるが，正式な発音とはいえない（Boersma/Van der Woude 1981[2]：62，Cohen et al. 1978[2]：124）。オランダ語の口語などとちがって母音化しない。

① r：

rider［rídər］「騎手，運転手」

② 歯茎音［s］，［z］，［l］，［d］，［t］，［n］の直前では脱落することが多い（§15参照）。

③ アクセントのある音節では，rの直後に歯茎音以外の子音が続く場合，中間にあいまい母音［ə］が挿入されることがある。

earm［Iər(ə)m，jɛr(ə)m］「腕」（本書では［Iərm，jɛrm］と表記する）

④ 直前のあいまい母音［ə］と同一音節にある場合には，音節化（§20）

を引き起こすことがある。

(3) 半母音 (it heallûd)

(a) まとめ

半母音 /j/, /w/ は後続する音の種類や現われる位置によって発音が変わり，一定しない。[i], [u] のように母音に相当する音色を帯びることもあるが，鳴音 [m], [n], [ŋ], [l], [r] とちがって音節核にはなれず，わたり音にとどまる。

/j/ と /w/ は音節の前半部(音節核である母音の前)でとくに口の開きが小さく，摩擦を伴い，それぞれ硬口蓋摩擦音 [j]，両唇摩擦音 [w] の子音として機能する。[w] は先行する子音の種類によって唇歯摩擦音 [v] に近づくことがある。一方，音節の後半部(音節核である母音の後)では口の開きが大きくなり，それぞれ母音 [i] と [u] に相当する音色を帯びる。

ただし，*[wu] という組み合わせはない。[vu] という組み合わせはあるが，この場合の [v] は語頭音 (単一語の初頭音) に限られ，完全な子音である ((c)⑥参照)。

woedzje [vúədʒə]「荒れ狂う」 wûnder [vûndər]「不思議」

また，[ji] も稀である。たとえば，jier [(j)iər]「年」では [j] が脱落する傾向が強く，次の語では tsji- [tʃi] (/tsji/) よりも tsi- [tsi] が一般的である (Booij 1988：16 f.)。

tsiis [tsi:s]「チーズ」～tsjiis [tʃi:s] (/tsji:s/)「同左」

tsier [tsiər]「すき間」～tsjier [tʃiər] (/tsjiər/)「同左」

本書ではじっさいの発音の便宜を考慮して，/j/ を [j] と [i]，/w/ を [w] と [u] にそれぞれ書きわけて示す。

(b) /j/

[j] ：音節の前半部。[i] よりも口の開きを小さくしていって摩擦を伴うようになるとこの音になる。

① j：

jeie [jáiə, jɛ́iə]「追いたてる」　hjoed [juət]「きょう」
njonken [njóŋkən]「..の横に」　strjitte [strjÍtə]「通り」

② いわゆる「のぼり二重母音」の [jI], [jɛ] の前半部。
stiennen [stjÍnən] (← stien [stiən])「石（複数形）」
teannen [tjɛ́nən] (← tean [tIən])「足の指（複数形）」

③ iuw [jyu, jo:u], eau [jo:u]：
liuw [ljyu, ljo:u]「ライオン」
ik leau [ljo:u] (← leauwe [ljó:wə])「私は信じる」

④ oeie [u(:)jə], aaie [a:jə], oaie [o:jə], oaie [wa:jə], oaie [wajə]
roeie [rú(:)jə]「漕ぐ」　(jin) baaie [bá:jə]「泳ぐ」
goaie [gó:jə]「投げる」　boaien [bwájən]「男の子（複数形）」
koaien [kwá:jən]「にせ卵（複数形）」

⑤ [i] の直前では脱落することがある。
jier [(j)iər]「年」⇔ jierren [jÍrən]「年（複数形）」

[i]：音節の後半部。
oei [u(:)i] (/u(:)j/), aai [a:i] (/a:j/), oai [o:i] (/o:j/),
oai [wa:i] (/wa:j/), oai [wai] (/waj/):
ik roei [ru(:)i] (← roeie [rú(:)jə])「私は漕ぐ」
ik baaide [bá:idə] my (← jin baaie [bá:jə])「私は泳いだ」
goai [go:i]「投げ」　koai [kwa:i]「にせ卵」
boai [bwai]「男の子」

(c) /w/

[w]：音節の前半部。[u] よりも両唇の開きを小さくしていき，摩擦を伴うようになるとこの音になる。
子音 [t], [d], [s], [k] の直後では唇歯摩擦音 v [v] として発音することがある。本書では [w] とだけ表記する。
twa [twa:]～[tva:]「2」　dwaan [dwa:n]～[dva:n]「する」
swiet [swiət]～[sviət]「甘い」　kwea [kwIə]～[kvIə]「悪」

tuorren [twŏrən]～[tvŏrən] (← toer [tuər])「塔（複数形）」
doarp [dwarp]～[dvarp]「村」
soannen [swánən]～[svánən] (← soan [soən])「息子(複数形)」
koarste [kwástə]～[kvástə]「かさぶた」
kwart「四分音符」と koart「短い」はともに [kwat]～[kvat] と発音する。

☞ Zantema (1984) では twa [tva:]「2」(ib. 1098), dwaan [dwa:n]「する」(ib. 208) のように発音表記が一定しておらず，一貫性を欠いている (ib. 16 の説明を参照)。

① w：語中の ieuwe [i:wə], eauwe [jo:wə], iuwe [jywə, jo:wə]。
ieuwen [í:wən] (← ieu [i:u])「世紀（複数形）」
priuwe [prjýwə, prjó:wə]「味わう，..の味がする」
leauwe [ljó:wə]「信じる」
語中の [w] は [v] とは異なる。
leauwe [ljó:wə]「信じる」⇔ love [ló:və]「ほめる」

② いわゆる「のぼり二重母音」の uo [wo], oa [wa] の前半部。
fuotsje [fwótʃə] (← foet [fuət])「足（縮小形）」
boartsje [bwátʃə]「遊ぶ」

③ m [m] の直後で [w] が脱落する語がある。
moandei [mándjə, mándi, mɛ́ndjə]「月曜日」
moatte [mátə, mwátə]「..なければならない」
⇔ moanne [mwánə]「月」

④ [w] の直前の w [v] は脱落する傾向がある (Cohen et al. 1978[2]：127)。
woartel [(v)wátəl]「根」　woarst [(v)wast]「ソーセージ」

⑤ auwe [ɔuə] と ouwe [ɔuə] では w の文字は正書法上の便宜であり，[w] の発音に対応していない (§ 24 (3)参照)。

☞ [u] から [ə] への移行において弱い [w] が認められるが，これはしぜんなわたり音であり，とくに表記する必要はない。

flauje [flɔ́ujə]「静まる，弱まる（不定詞）」

De wyn *flauwet* [flɔ́uət].「風が弱まる（現在形）」
De wyn *flauwe* [flɔ́uə].「風が弱まった（過去形）」
touje [tɔ́ujə]「寝言を言う（不定詞）」
Hy *touwet* [tɔ́uət].「彼は寝言を言う（現在形）」
Hy *touwe* [tɔ́uə].「彼は寝言を言った（過去形）」

⑥ 語頭(単一語の初頭)の w の文字は唇歯摩擦音［v］であり，［w］とは発音しない。これは半母音ではなく，完全な子音である。語頭では［w］と［v］の対立がある。
hoart [wat]「(しばらくの) 時間」⇔ wart [vat]「イボ」
oarre [wárə]「祖父，祖母」⇔(jin) warre [várə]「身を守る」

☞ 語頭の w はかつては両唇摩擦音［w］だったが，早い時期に唇歯摩擦音［v］に変化した。他の w や「割れ」(§10) によって後代に生じた［w］の音はこの変化を受けていない (Cohen et al. 1978[2]：125)。

［u］：音節の後半部。
ieu [i:u] (/i:w/)，eau [jo:u] (/jo:w/)，iuw [jyu] (/jyw/)/[jo:u] (/jo:w/)：
ieu [i:u]「世紀」
ik leau [ljo:u] (← leauwe [ljɔ́:wə])「私は信じる」
ik priuw [prjyu, prjo:u] (← priuwe [prjýwə, prjɔ́:wə])「私は味わう」

§13 その他の子音の発音

次の音は他の子音の一種（異音）または複数の子音の組み合わせと解釈される。

［g］：日本語のグの音。語頭，あるいは語中でアクセントを持つ音節のはじめにおいて，有声摩擦音 g［γ］のかわりに出る。g［γ］の一種(異音)。
g：
God [got]「神」　　gemy [gImí]「化学」

begjin [bəgjÍn]「はじまり」　augustus [ɔugǿstəs]「八月」

[ts]：破擦音。/t/ と /s/ の連続と解釈される。

ts：

tsiis [tsi:s]「チーズ」　lyts [lits]「小さい」

grutsk [grøtsk]「誇り高い，高慢な」

[ʃ]：/s/ と /j/ の連続と解釈される。

sj：

sjitte [ʃÍtə]「撃つ」　sjonge [ʃɔ́ŋə]「歌う」

fakânsje [fəkɔ́:ⁿʃə]「休暇」

searje：

organisearje [ɔrγaniʃɛ́rjə, ..sÍərjə]「組織する」⇔ searje [sÍərjə]「シリーズ」

[ʒ]：/z/ と /j/ の連続と解釈される。語頭では出ない。

zj：

rûzje [rú:ʒə]「(風などが) カサカサ音をたてる」

horloazje [hələ́ə̃ʒə, ha..]「腕時計」

zearje [ʒɛ́rjə, zÍərjə]：

sintrifuzearje [sIntrifyʒɛ́rjə, ..zÍərjə]「遠心機で分離する」

[tʃ]：/t/ と /s/ と /j/ の連続と解釈される。*[ts-j] とは発音しないことに注意。

tsj：

tsjerke [tʃɛ́rkə]「教会」　tsjok [tʃok]「厚い」

reitsje [ráitʃə, rɛ́i..]「達する，..(の状態に)なる」

[dʒ]：/d/ と /z/ と /j/ の連続と解釈される。語頭では出ない。

dzj：

siedzje [ʃÍdʒə]「種をまく」　antwurdzje [ɔ́ntvødʒə]「答える」

Ⅳ　子音にかんする現象

§14　語末音の無声化（de einlûdferskerping）

(1)　まとめ

(a)　規則的な無声化

ひとつの語を他の語と区切って単独に発音した場合，有声の障害音（de obstruint，閉鎖音と摩擦音）は音節末（いわゆる「語末音」，ド．Auslaut）で対応する無声音になる。摩擦音は正書法で区別するが（v［v］⇔ f［f］；z［z］⇔ s［s］），閉鎖音は区別しない。とくに語形変化や語形成では注意する必要がある。

① b［b］－b［p］

stobbe［stóbə］「切り株」－stobke［stópkə］「切り株（縮小形）」

② d［d］－d［t］

side［sídə］「脇」－sydpaad［sítpa:t］「脇道」

③ v［v］－f［f］

leave［lǐəvə］「好きな（変化形）」－leaf［lIəf］「好きな」

④ z［z］－s［s］

noazich［nóəzəx］「鼻音の」－noas［noəs］「鼻」

⑤ g［γ］－ch［x］

lige［lí:γə］「うそをつく（不定詞）」－ik liich［li:x］「私はうそをつく」

(b)　-ng［ŋ］と［k］の挿入

-ng［ŋ］で終わる名詞は縮小形（§32）で -nkje とつづり，形容詞派生接尾辞 -lik がついた場合にも -nklik となる（(2)(a)参照）。また，合成語でも -nk となるものがある。

ring［rIŋ］－rinkje［rǐŋkjə］「指輪」

kening［kḗ:nIŋ］「王」－keninkje［kḗ:nIŋkjə］「王（縮小形）」－

keninklik［kḗ:nIŋklək］「王の」－keninkryk［kḗ:nIŋkrik］「王国」

この場合，つづりの上では g から k への無声化が起こっているように見える。しかし，発音上はもとの語形と -je，-lik，-ryk のあいだに [k] が挿入されている。これは語末音の無声化ではなく，[k] の挿入である。そもそも [ŋ] は障害音ではない。

☞ 語末音の無声化はドイツ語やオランダ語でも古くから見られるが，西フリジア語では 20 世紀になってからおそらくオランダ語の影響によって広まったと考えられる新しい現象である。たとえば Sipma (1913：26) では，語末音の無声化は短母音といわゆる「のぼり二重母音」の後でまだ認められていない。

(c) 障害音の連続と無声化

西フリジア語では障害音の連続は有声か無声かに統一されていなければならず，語末音での障害音の連続は全体で無声音になる。前半部が有声摩擦音である場合には，無声化は (a) と同様に正書法で表記するが，例外的に -gd [xt] は *-chd とはつづらない。

love [lóːvə]「ほめる（不定詞）」→ do loofst [loːfst]「君はほめる」

gnize [gníːzə]「嘲笑する（不定詞）」→{do/hy} gniist [gniːst]「{君/彼} は嘲笑する」

doge [dóː*γ*ə]「役に立つ（不定詞）」→ hy doocht [doːxt]「彼は役に立つ」

次の語の正書法に注意。

doogd [doːxt]（← doge）「役に立った（過去分詞）」

jeugd [jøːxt]「若さ」

(2) 個々の例外

(a) 有声閉鎖音ではじまる接尾辞

西フリジア語では障害音の連続はともに有声音か無声音のどちらかでなければならないため，-de [də]（名詞派生），-ber [bər]（形容詞派生）のように有声閉鎖音で始まる接尾辞が後続する場合には，障害音は無声化を起こした音としては現われない。

leafde [lÍəvdə]「愛」（← leaf [lIəf] ～leave [lÍəvə]「好きな」）

draachber [drá:γbər]「携帯可能な」(← drage [drá:γə]「運ぶ」)

(b) 形容詞派生接尾辞 -lik [lək]

① 無声化が起こる場合

無声化が起こるのが規則的である。

beweechlik [bəvé:xlək]「動かしやすい」(← bewege [bəvé:γə]「動かす」)

behaachlik [bəhá:xlək]「快適な」(← behaagje [bəhá:γjə]「..の気に入る」)

freeslik [fré:slək]「恐ろしい」(← freezje [fré:ʒə]「恐れる」)

leaflik [lÍəflək]「愛らしい」(← leaf [lIəf]〜leave [lÍəvə]「好きな」)

② 無声化が起こらない場合 (Van der Meer/De Graaf 1986：314, Tiersma 1985：30)

もとの語形が /d/ で終わる場合には，無声化が起こらないことが多い。

dúdlik [dýdlək]「明らかな」　tydlik [tídlək]「一時的な」

gaadlik [gá:dlək]「適当な」　nuodlik [nwódlək]「危ういい」

その他の音で終わる場合にも無声化が起こらない語がある。

mooglik [mó:γlək]「可能な」(オランダ語 mogelijk [mó:γələk] の影響とも考えられる)

deeglik [dé:γlək] (degelik [dé:γələk])「堅実な」

☞ これは無声摩擦音が同化 (§19) によって有声化したものではない。

☞ オランダ語では d と -lijk のあいだに e [ə] を挿入する。

duidelijk [dœydələk]「明らかな」　tijdelijk [tɛ́idələk]「一時的な」

③ (1)で述べたように，形容詞派生接尾辞 -lik [lək] の直前で -ng [ŋ] が -nk [ŋk] となるのは無声化ではなく，[k] の挿入である。

ôfhinklik [ɔ:hÍŋklək]「依存した」← ôfhingje [ɔ́:hIŋjə]「依存する」

oarspronklik [oə(r)sprɔ́ŋklək]「もとの」←oarsprong [ɔ́ə(r)sproŋ]「起源」

☞ -n [n] と -lik のあいだに t [t] が挿入される語もある。ドイツ語も同様。オランダ語との相違に注意。
西フ. eigentlik [áiγəntlək, ɛ́i..]「本当の」
(オ. eigenlijk [ɛ́iγənlək] ド. eigentlich [áIgəntlIç])
西フ. wêzen(t)lik [vɛ́:zən(t)lək]/wezen(t)lik [vɛ́:..]「現実の」
(オ. wezenlijk [vɛ́:zənlək] ド. wesentlich [vɛ́:zəntlIç])
オランダ語でも古くは t が挿入された語形が見られたが，現在では -lijk の直前の音節にアクセントのあるわずかな語に e [ə] を伴った形で残っているにすぎない (Van Loey 1970[8]：198 f.)。
オ. ordentelijk [ɔrdɛ́ntələk]「正式の」
(西フ. ordintlik [ɔrdÍntlək] ド. ordentlich [ɔ́rdəntlIç])
鼻音 -m [m] と -lik のあいだにわたり音としての子音 ([p] など) が挿入された語形を表記している例はない (Visser 1988 b：15)。

(c) 名詞派生接尾辞 -(n)er

名詞派生接尾辞 -er は語幹が d [d] で終わる場合には -ner となることがあるが，語幹の d [d] は無声化しない。

widner [vÍdnər]「男やもめ」(← widdo [vÍdo]「未亡人」)
byldner [bíldnər]「(貨幣の) 肖像のある面」(← byld [bilt], /bild/「像」)
reedner [rɛ́:dnər]「演説者」(← rede [rɛ́:də]「演説」)
moardner [mwádnər]「殺人者」(← moardzje [mwádʒə]「人殺し」)

☞ オランダ語では d と -ner のあいだに e [ə] を挿入する。
オ. beeldenaar [bɛ́:ldəna:r]「(貨幣の) 肖像のある面」
moordenaar [mɔ́:rdəna:r]「殺人者」
redenaar [rɛ́:dəna:r]「演説者」
ドイツ語でもこの場合には無声化が起こらない。
ド. Bildner [bÍldnər]「彫刻家」
Redner [rɛ́:dnər]「演説者」

(3) 縮小形接尾辞 -je [jə] と動詞派生接尾辞 -je [jə] での相違

語末音の無声化は縮小形接尾辞 -je [jə] の直前では起こるが，動詞派生接尾辞 -je [jə] の直前では起こらない。

seachje [sǐəxjə] (← seage [sǐəγə])「のこぎり（縮小形）」

⇔ seagje [sǐəγjə]「のこぎりをひく」

paadsje [pá:tʃə] (← paad [pa:t], /pa:d/)「小道（縮小形）」

⇔ paadzje [pá:dʒə]「小道を作る」

縮小形接尾辞 -je の直前で無声化が起こるのは例外的であり，注意を要する。

縮小形では短母音化（§ 9）を伴うことがあるが，派生動詞では短母音化は起こらない。これは，西フリジア語では有声の摩擦音が語中の短母音の直後で現われることが稀であるためである。

bledsje [blɛ́tʃə] (← blêd [blɛ:t])「葉（縮小形）」

⇔ blêdzje [blɛ́:dʒə]「ページをめくる，葉をつける」

rychje [ríxjə] (← rige [rí:γə])「列（縮小形）」

⇔ riigje [rí:γjə]「並ぶ」

☞ 両者のあいだではっきりした相違があることについては説明を要する。Tiersma (1979：156) は縮小形と派生動詞のあいだで語の構成に差があるのが原因であると述べている。すなわち，縮小形では -je が語境界（エ．word boundary）を形成し，-je の前の要素の独立性が強いために無声化が起こるのにたいして，派生動詞では -je が形態素境界（エ．morpheme boundary）を形成し，-je の直前の要素が語としての独立性が弱く，派生動詞全体で 1 語と意識されているために無声化が起こらないという。しかし，この区別は恣意的であるように思われる。本書では，西フリジア語の語末音の無声化は語境界や形態素境界とは無関係であり，音のレベルでの規則であるとみなす立場をとる（Visser 1989 参照）。

派生動詞 seagje [sǐəγjə]，paadzje [pá:dʒə]（訳語省略）では音節の境界が [(sǐə)(γjə)]，[(pá:)(dʒə)] となるので，当然，無声化が起こらない。それにたいして，縮小形 seachje [sǐəxjə]，paadsje [pá:tʃə]（訳語省略）で無声化が起こるのは，縮小形接尾辞 -je [jə] が本来，‘子音＋-je’ の変種であり，その直前に音節の切れ目があるためと考えられる。すなわち，西フリジア語の縮小形には -ke [kə]，-tsje [tʃə] (← [tsjə]，/tjə/)，-je [jə] の 3 種類があり（§ 32），後続する子音の種類によって使い分けられる。-je [jə] は軟口蓋音 [k]，[x]，[γ]，[ŋ] の直後で用いられるが，これは -tsje /tjə/ (→ [tsjə] → [tʃə] 破擦音化 § 18 (5)) の /t/ が脱落したものとみなすことができる。つまり，軟口蓋音 /γ/ に後続する形として縮小形接尾辞 /tjə/ が選ばれ，音節の区分（分節化 de syllabifikaasje）とそれに伴う語末音の無声化のあとで /t/ が脱落して [jə] と実現されると考えれば，例外的な縮小形での無声化が説明

できる。具体的には次のようになる。
[sĺəγtjə]→[(sĺəγ)(tjə)] → [(sĺəx)(tjə)] → [sĺəxjə] seachje
[pá:dtjə]→[(pá:d)(tjə)] → [(pá:t)(tjə)] → [pá:tjə] → [pá:tsjə] → [pá:tʃə] paadsje
ちなみに，Van der Meer (1990) は，Van Loey (1970[8]：229) がオランダ語の koninkje [kó:nIŋkjə] (← koning [kó:nIŋ]) 「王(縮小形)」のような語形を -ng がかつて [ŋk] の音だったことから，-k-tje のように [tjə] の付加と後の時代での t の消去から導く説明をしているのに従って，これを西フリジア語についても適用できるとしているが，[tjə] から [jə] が導かれるのを歴史的な現象ととらえている。また，語末音の無声化を純粋な音韻規則であるともみなしていない。

☞ ドイツ語の語末音の無声化 (Auslautverhärtung) には形態音素論 (ド. Morphophonemik) 的な性格がある。たとえば，次の語では音節境界 (ド. Silbengrenze) と形態素境界 (ド. Morphemgrenze) が一致した場合にのみ無声化が起こっている (Ten Cate/Jordens 1990：63 f.)。
Regler [ré:glər] 「調節器」(← regeln [ré:gəln] 「調整する」)
⇔ reglos [ré:klo:s] 「不動の」(← regen [ré:gən] 「動かす」)
übrig [ý:brIç] 「余りの」(← über [ý:bər] 「余って」)
⇔ üblich [ý:plIç] 「通例の」(← üben [ý:bən] 「訓練する」)

§15 r の脱落

(a) 語中での r の脱落

子音 r [r] は単一語において歯茎音 [s], [z], [l], [d], [t], [n] の直前で脱落する。

☞ 'soldaten' と覚えると便利。

kers [kɛs] 「ろうそく」
ferzen [fɛ́:zən] (← frieze [fríəzə] 「凍る (過去分詞)」
kerl [kɛl] 「核」　　gerdyn [gədín] 「カーテン」
kikkert [kÍkət] 「カエル」　　bern [bɛ:n] 「子供」

最近の外来語にはつづりどおりに発音して r が脱落しないものがある。

persoan [pərsóən] 「人，人称」 persint [pərsÍnt] 「パーセント」
perzik [pɛ́rzək] 「桃」　　ordintlik [ɔrdÍntlək] 「正式の」
sport [spɔrt] 「スポーツ」　dessert [dɛsɛ́rt, də..] 「デザート」

modern [modɛ́rn]「現代的な」

☞ 次の語では語中音の [ə] だけでなく，[t] の前で r もつづりの上で脱落している。
siktaris [sIktá:rəs] (sekretaris [sIkrətá:rəs])「(地方自治体の) 書記官」
siktarij [sIktərɛ́i] (sekretary [sIkrətarí])「(地方自治体の) 書記局」

(b) 語形変化での r の脱落

① 名詞複数形・属格

bakker [bákər]「パン屋」→ bakkers [bákəs] (Tiersma 1979：140)

② 形容詞の比較

fier [fiər]「遠い」－比較級　fierder [fjÍdər]－最上級　fierst [fjIst]

③ 動詞人称変化

farre [fárə]「船で行く」

現在形	ik far [far]	過去形	ik foer [fuər]
	do farst [fast]		do foerst [fuəst]
	hy fart [fat]		hy foer [fuər]
	wy farre [fárə]		wy foeren [fúərən]
過去分詞	ik bin fearn [fIən]		

(c) 派生語と合成語での r の脱落

派生語と合成語では微妙な場合がある。

① 接頭辞 fer-，foar-，oar-，oer-，wer- による派生語

[h] を除くすべての子音の直前で，一般に r は脱落する。

fer-：ferlieze [fəlíəzə]「失う」　ferkeapje [fəkÍəpjə]「売る」

foar-：foarnaam [fənáːm]「身分の高い」

foarby [fwabɛ́i, fə..]「..を通り過ぎて」

oar-：oarloch [ɔ́ələx]「戦争」　oardiel [ɔ́ədiəl]「判断」

oer-：oersmite [uəsmítə]「向こうへ投げる」

oerbetterje [uəbɛ́tərjə]「直し過ぎる」

wer-：werjaan [vɛ́jaːn]「返す」　werkomme [vɛ́komə]「戻る」

母音と子音［h］の直前ではｒは脱落しない。

ferienje［fəríəⁿjə］「統一する」　ferhaal［fərhá:l］「物語」

foaral［fwarɔ́l, farɔ́l, frɔl］「まず第一に」

foarhinne［fwarhÍnə, far..，fər..］「以前」

oerien［uəríən］「一致した」　oerhastich［uərhástəx］「せっかちな」

werom［vəróm］「戻って」　werhelje［vɛ́rhɛljə］「取り戻す」

☞ ｒが母音の直前で脱落しないのは，母音の連続(it hiaat)を避けるためと考えられる。ｒが［h］の直前で脱落しないのも，［h］の音が弱いためにｒを介して母音の連続を避けようとするためと思われる。

② その他の派生語と合成語

その他の派生語では個々の語彙によって差があり，微妙である。合成語の第１成分では起こらないことも多い(Tiersma 1979：142)。

earlik［Íələk］「誠実な」(Sipma 1913：141, Tiersma 1979：141)

skoarstien［skwáʃən］「煙突」

⇔ modderdyk［mɔ́dərdik］「舗装していない道」(Fokkema 19672：32)

Nederlân［né:dərlɔ:n］「オランダ」

Easternijtsjerk［jɛstərnɛ́itʃɛrk］「イェステルネイチェルク(地名：オ．Oosternijkerk　オーステルネイケルク)」

③ その他の傾向

一般にｒはアクセントのない音節（Fokkema 1967²：32）やくだり二重母音と長母音の直前で脱落しやすく，いわゆる「のぼり二重母音」と短母音の直後で脱落しにくい傾向がある（Boelens 1952：59 f.)。話しかたによって差が生じることがあり，方言差もある(ib. 60, 63)。

(d) 単語間でのｒの脱落

次の語ではとくに早口で発音した場合，ｈ［h］を除くすべての子音の直前でｒが脱落することがある。

前置詞　foar [fwar, far]「..の前に」　oer [uər]「.. の上方に」
副詞　dêr [dɛ(:)r]「そこに」　hjir [jIr]「ここに」
　　wêr [vɛ:r]「どこに」　wer [vɛr]「ふたたび」
接続詞・副詞　mar [mar]「しかし；ちょっと，まあ」
foar jo [fwa jo:u, fa..] (Sipma 1913：23)「あなたのために」
oer seizen [uə sáizən, ..sɛ́izən] (ib. 23)「7時すぎに」
Hjir mar delsette！ [ji ma dɛ́lsɛtə] (ib. 23 変更)「ちょっとここで下ろして！」

§16　二重子音の縮約 (de degeminaasje)

(a)　同一子音の連続の縮約 ($C_1+C_1 \rightarrow C_1$)

西フリジア語にはオランダ語と同様に同一の子音 (C：子音) の連続がなく，ネッシン (熱心)，キッテ (切手) のような日本語の促音にあたる発音がない。次のような動詞・形容詞の語形変化や語形成では，二重子音は単子音に縮約して発音される。語形変化では同一子音字の場合，正書法でも縮約して単子音として表記する。

①　語形変化：正書法でも表記

hy yt-t → hy yt [it]「彼は食べる」(← ite [ítə]「食べる」)
hy bid-t → hy bidt [bIt]「彼は祈る」(← bidde [bÍdə]「祈る」)
do　ferlies-st → do　ferliest [fəlíəst]「君は失う」(← ferlieze [fəlíəzə]「失う」)
kreas-st　→ kreast [krIəst]「もっともすてきな」(← kreas [krIəs]「すてきな」)

②　語形成

op-passe → oppasse [ɔ́pɔsə]「注意する」(Fokkema 1967²：143)
út-teare → útteare [ýtIərə]「(たたんだものを) 広げる」(ib. 149)
molk(e)-karre → molkkarre [mɔ́lkarə]「牛乳運搬車」(ib. 141)
soks-sa-wat → sokssawat [sɔ́ksavɔt]「そのようなこと」
al-lang → allang [ɔ́laŋ]「ずっと長い間」(ib. 143)

ûn-noazel → ûnnoazel [únoəzəl]「愚かな」(ib. 149, Zantema 1984：1117)

út-drage → útdrage [ýtdra:γə] → [ýddra:γə] → [ýdra:γə]「運び出す」(Boersma/Van der Woude 1981²：65 変更)

(b) 同一子音群の連続の縮約 ($C_iC_j + C_iC_j \rightarrow C_iC_j$)

同一子音の連続だけでなく，同一子音群の連続もひとつの子音群に縮約される (Hoekstra 1986：51)。

do rêst-st → do rêstst [rɛ:st]「君は休む」(← rêste [rɛ́:stə]「休む」)

rêst-stee → rêststee [rɛ́:ste:]「休憩所」

post-stimpel → poststimpel [pɔ́stImpəl]「消印」

fisk-skjirre → fiskskjirre [fÍskjIrə]「干物の魚を切るはさみ」

fyts-tsjil → fytstsjil [fítsjIl] → [fítʃIl]「自転車のタイヤ」

§17 t の脱落

他の歯茎音と連続する t はさまざまな条件のもとで脱落することがある。以下におもな場合を分類して示す。

(1) [t] (語幹末) + [st] (語尾・接尾辞) → [st]

語形変化や派生語において，語幹末の [t] に [st] で始まる語尾や接尾辞が後続すると，語幹末の [t] が脱落する (Hoekstra 1986)。

(a) 個々の用例

① 動詞人称変化：-st

do yt-st → do ytst [ist]「君は食べる」(← ite [ítə]「食べる」)

do tocht-st → do tochtst [tɔxst, tɔkst] (← tinke [tÍŋkə]「考える」)

do bid-st → do bidst [bIst]「君は祈る」(← bidde [bÍdə]「祈る」)

do skeld-st → do skeld-st [skɛlst]「君は叱る」(← skelde [skɛ́ldə]「叱る」)

② 形容詞最上級：-st

bot-st → botst [bost]「もっとも鈍い」(← bot [bot]「鈍い」)

licht-st → lichtst [lIxst, lIkst]「もっとも軽い」(← licht [lIxt]「軽い」)

geleard-st→geleardst [gəlÍəst]「もっとも学識のある」(←geleard [gəlÍət]「学識のある」)

frjemd-st → frjemdst [frjɛmst]「もっともなじみのない」(← frjemd [frjɛmt]「なじみのない」)

☞ 次の例に注意。

leaf-st → leafst [ljɛst, ljɔ:ust]「いちばん..(したい)」(← graach [gra:x]「好んで」) ⇔ leaf-st → leafst [lIəfst]「もっとも好きな」(← leaf [lIəf]「好きな」)

③ 序数詞：-ste

hûnderd-ste → hûnderd [húndəstə]「百番目の」(← hûnderd [húndət]「百」)

acht-ste → achtste [áxstə, ákstə]「8番目の」(← acht「8」)

④ 女性名詞派生接尾辞：-ster

fjocht-ster → fjochtster [fjóxstər, fjókstər]「女性のフェンシングの選手」(← fjochter [fjóxtər]「フェンシングの選手」)

arbeid-ster → arbeidster [árbaistər, ..bɛi..]「女性労働者」(← arbeider [árbaidər, ..bɛi..]「労働者」)

⑤ 地名の形容詞化・住民を表わす名詞化の派生接尾辞：-ster

Dracht-ster → Drachtster [dráxstər, drákstər]「ドラハテンの(人)」(← Drachten [dráxtən]「ドラハテン」)

Earnewâld-ster → Earnewâldster [jɛnəvɔ́:stər]「イェネヴォーデの(人)」(← Earnewâlde [jɛnəvɔ́:də]「イェネヴォーデ(オ. Eernewoude エールネヴァウデ)」)

(b) tの脱落が起こらないもの

tの脱落は上述の条件のもとでの語形変化や派生語に限られる。

① 語幹が［ts］を含む場合

もともと語幹に子音連続［ts］がある場合には，t は脱落しない。

hy fyts-t → hy fytst［fitst］「彼は自転車に乗る」(← fytse［fítsə］「自転車に乗る」)

do fyts-st → do fytst［fitst］「君は自転車に乗る」

ただし，次の語は例外。

lyts-st → lytst［list（稀 litst)］「もっとも小さい」(← lyts［lits］「小さい」)

② 合成語

合成語の成分どうしの境界では t の脱落は起こらない（Hoekstra 1986：49)。

bried-stoel → briedstoel［brjÍtstuəl，bríət..］「ひじ掛けいす」

③ -stra で終わる名字

名字（家族名，姓）に用いられる -stra では t の脱落は起こらない。元来，-stra は属格複数形語尾に由来するが，今日ではそのような意識はなく，-stra を含む名字全体で 1 つの単一語になっている（Hoekstra 1986：53)。

Koatstra［kóətstra］「コアツトラ」

Bandstra［bɔ́ntstra］「ボンツトラ」

(c) 類似した現象

sille［sÍlə］「..だろう」と wolle［vɔ́lə］「..したい」では 2 人称単数形の語尾 -st の前で語幹末の［l］が脱落する。それ以外の動詞（助動詞）では脱落しない。

do sil-st → do silst［sIst］「君は..だろう」

do wol-st → do solst［vost］「君は..したいようだ」

⇔ do til-st → do tilst［tIlst］(*［tIst］は不可)「君は持ちあげる」)

(← tille［tÍlə］「持ちあげる」)

口語では次のような例も見られる。

do doch-st → do dochst［dost］(［doxst，dokst］)「君はする」(←

dwaan [dwa:n]「する」)

(2) [sts] → [ss] → [s]

(a) 動詞派生接尾辞 -je：/stjə/→ [stsjə] → [ssjə] → [sjə] → [ʃə]

[st] に動詞派生接尾辞 -je [jə] が後続すると，[..tjə] という子音の連続を嫌って破擦音化（§18(5)）を起こし（[..tsjə]），全体で [sts] という連続が生じるので，これを避けて [t] が脱落する（Visser 1993：123 ff.）。

feest-je → feestje [fé:ʃə]「祝う」(← feest [fe:st]「祝祭」) ⇔ ik feeste [fé:stə]「私は祝った（過去形）」

([fé:stjə] → [fé:stsjə] → [fé:ssjə] → [fé:sjə] → [fé:ʃə])

hoast-je → hoastje [wáʃə]「せきをする」(← hoast [wast]「せき」) ⇔ ik hoaste [wástə]「私はせきをした（過去形）」

([wástjə] → [wástsjə] → [wássjə] → [wásjə] → [wáʃə])

① 例外：k の挿入を伴うもの

次の語では st と -je のあいだに k が挿入されている。t の脱落は後続する -je に伴う破擦音化によって生じる [sts] によるものではなく，変化形のすべてに通じて t の脱落が見られる。

fûst-k-je → fûstkje [fúskjə]「握手する」(← fûst [fust]「握りこぶし」) ～ik fûstke [fúskə]「私は握手をした（過去形）」

② t の脱落にあてはまらない条件の場合

語幹末が 's 以外の子音＋t' の場合には，破擦音化だけが起こり，t の脱落は起こらない。つづりの上でも語幹に -sje が付加される。

wacht-je → wachtsje [váxtʃə]「待つ」

([váxtjə]→ [váxtsjə] → [váxtʃə])

krant-je → krantsje [krɔ́ntʃə]「新聞を読む」(← krant [krɔnt]「新聞」)

([krɔ́ntjə]→ [krɔ́ntsjə] → [krɔ́ntʃə])

語幹末が '子音＋t' 以外で終わる場合には，破擦音化も t の脱落も

起こらない。つづりの上でも語幹に -je だけが付加される。

(jin) skam-je → skamje [skámjə]「恥じる」

(b) 縮小形 -(ts)je (←/tjə/)：/sttjə/→ [sttsjə] → [stsjə] → [ssjə] → [sjə] → [ʃə]

[t] で終わる名詞では縮小形接尾辞として -tsje [tsjə] (→[tʃə]) が選ばれる (§ 32 参照)。これは本来，[tjə] という子音の連続を嫌って破擦音化を起こしたものだが，この結果，[st] で終わる名詞では [sts] という子音の連続が生じ，[t] が脱落する (Visser 1993：125 f.)。つづりの上では語幹に -je が付加されたように見える。

feest-tsje → feestje [fé:ʃə] (← feest [fe:st]「祝祭」)

([fé:sttjə] → [fé:sttsjə] → [fé:stsjə] → [fé:ssjə] → [fé:sjə] → [fé:ʃə])

① 例外：-ke を選択するもの

-(ts)je のほかに -ke を伴う形をもつ語が多い。-ke を選択する場合には，縮小形接尾辞の語形が決定する前に（以下の用例では抽象的な形として「縮小」と示す）t が脱落し，その後で s に後続する語形として -ke が選ばれる (§ 32 参照)。

fûst-tsje → fûstje [fúʃə] (← fûst [fust]「握りこぶし」)

([fústtjə] → [fústtsjə] → [fústsjə] → [fússjə] → [fúsjə] → [fúʃə])

⇔ fûst-ke → fûstke [fúskə] (同上)

([fúst-縮小] → [fús-縮小] → [fúskə])

☞ この場合の t の脱落はここでの条件以外で起こっている。(a)① fûstkje [fúskjə]「握手する」を参照。

次の語は s のかわりに f を含んでいるが，同様の現象が見られる。

skoft-ke → skoftke [skɔ́fkə] (← skoft [skoft]「休憩」)

一方，次の場合には語幹末の t に st で始まる語尾や接尾辞が後続しないので，(1)に該当せず，t は脱落しない。縮小形接尾辞は -tsje [tʃə] (/tjə/) が選ばれる。

skoft-tsje → skoftsje [skɔ́ftʃə] (← skoft [skoft]「休憩」)

([skɔ́fttjə] → [skɔ́fttsjə] → [skɔ́ftsjə] → [skɔ́ftʃə])

次の語は -(ts)je を欠き，-ke だけしかない。

winst-ke → winstke [vẽ:ⁿskə] (← winst [ve:ⁿst]「利息」)

([vĺnst-縮小] → [vé:ⁿst-縮小] → [vé:ⁿs-縮小] → [vé:ⁿskə])

☞ 上記の場合と類似した用例として次の語を挙げておく。

lamp-ke → lampke [lámkə] (← lampe [lámpə]「ランプ, 電灯」) (Zantema 1984 : 553)

⇔ lamke [lámkə] (← laam [la:m]「小羊」)

② t の脱落にあてはまらない条件の場合

語幹末が 's(または f)以外の音＋t' の場合には，ふつう破擦音化だけが起こり，t の脱落は起こらない。つづりの上でも語幹に -sje (←-tsje) が付加される。

praat-tsje → praatsje [prá:tʃə] (← praat [pra:t]「おしゃべり」)

([prá:ttjə] → [prá:ttsjə] → [prá:tsjə] → [prá:tʃə])

tint(e)-tsje → tintsje [tĺntʃə] (← tinte [tĺntə]「テント」)

([tĺnt(ə)tjə] → [tĺnttsjə] → [tĺntsjə] → [tĺntʃə])

③ 副詞拡張語尾 -(ts)jes

副詞拡張語尾 -(ts)jes も '縮小形接尾辞＋s' としてとらえられる。

just [jøst]「まったく，まさに；ちょうど」→ justjes [jǿʃəs]「同左」

⇔ even [é:vən]/effen [ɛ́fən]「ちょうど，まさに，ちょっと」→ even-tsjes [é:vəntʃəs]/eefkes [é:fkəs]/efkes [ɛ́fkəs]「同左」

☞ 形容詞派生接尾辞 -lik

類似した例として，形容詞派生接尾辞 -lik では [st]＋[l] で t の脱落が見られることがある。

kristlik [krĺs(t)lək]「キリスト教（人）の」(WFT 11 : 341)

kostlik [kɔ́s(t)lək]「おいしい，すばらしい」(WFT 11 : 264)

(c) -estje で終わる外来語

語形変化や派生語以外の場合として，-estje [ɛ́ʃə] で終わるオランダ語(オ．-estie [ɛ́sti·])からの借用語がある。西フリジア語では無アクセントの /i/ は [jə] となるので(Visser 1992)（口語では [i] も可。例：middei [mĺdjə, ..di]「昼，午後」)，[ɛ́sti] は破擦音化を経て [ɛ́stsjə] となって [sts] の連続が生じ，t の脱落が起こる(Visser 1993 : 126 f.)。

kwestje [kwɛ́ʃə]「用件，トラブル」(オ．kwestie [kwɛ́sti·])

([kwɛ́stjə] → [kwɛ́stsjə] → [kwɛ́ssjə] → [kwɛ́sjə] → [kwɛ́ʃə])

suggestje [søgɛ́ʃə]「示唆」(才. suggestie [syγɛ́sti·])

([søgɛ́stjə] → [søgɛ́stsjə] → [søgɛ́ssjə] → [søgɛ́sjə] → [søgɛ́ʃə])

☞ -estje で終わる外来語ではないが，語形変化や派生語以外の場合として，次の語では t の脱落が見られる。

postsegel [pɔ́se:γəl]「切手」(Visser 1993：129)

([pɔ́stse:γəl] → [pɔ́sse:γəl] → [pɔ́se:γəl])

この語は 'post「郵便物」+segel「印」' という合成語としての意識が薄れ，「切手」という意味の単一語ととらえられていると考えられる（今日では「切手」は「印」ではない)。

(d) t の脱落が起こらない場合

語形変化や派生語では上記の(a)(b)の場合を除いて，t の脱落が起こらない。

① '不定代名詞+形容詞 -s' (Visser 1993：128)

wat robúst-s → wat robústs [robýsts]「何かしっかしりしたもの」(← robúst [robýst]「しっかりした」)

wat fêst-s → wat fêsts [fɛ:sts]「何か堅固なもの」(← fêst [fɛ:st]「堅固な」)

② 名詞派生接尾辞 -sel (Hoekstra 1986：48)

opbest-sel→opbestsel [ɔ́bəstsəl]「縫い上げ，タック」(←opbeste [ɔ́bəstə]/opbestje [ɔ́bəʃə]「縫い上げる」)

(3) t (語幹末)+副詞派生接尾辞 -s → -s

接尾辞 -s によって派生した少数の副詞では t の脱落が見られる。接尾辞 -s は今日では生産性を失っており，派生によって生じたという意識が薄く，-chts- を含む語彙的に固定した少数の語にとどまる。

sachts [saxs, saks]「静かに，文句を言わずに，少なくとも，いずれにせよ」

ûnferwachts [ûⁿfəvaxs, ..vaks]「不意に」

nachts [naxs, naks]「夜に」(← nacht [naxt]「夜」)

rjochts [rjoxs, rjoks]「右に（副詞）；右利きの（形容詞）」

(a) t の脱落が起こらない場合（Hoekstra 1986：48）

語形変化や副詞派生接尾辞 -s 以外の派生語では，上記の場合を除いて t の脱落が起こらない。

① ‘不定代名詞＋形容詞 -s’

(wat) licht-s → (wat) lichts [lIxts]「何か軽いもの」(← licht [lIxt]「軽い」)

(wat) frjemd-s → (wat) frjemds [frjɛmts]「何かなじみのないもの」(← frjemd [frjɛmt]「なじみのない」)

② 名詞派生接尾辞 -sel

oerprint-sel → oerprintsel [ú̃əprIntsəl]「抜き刷り」(← oerprintsje [ú̃əprIntʃə]「抜き刷りを印刷する」)

③ 形容詞派生接尾辞 -sum

betocht-sum → betochtsum [bətɔ́xtsəm]「思慮深い」(← betocht [bətɔ́xt]「気にかけている」)

arbeid-sum → arbeidsum [arbáitsəm, ..ɛ́i..]「勤勉な」(← arbeidzje [árbaidʒə, ..ɛi..]「働く」)

④ 形容詞（名詞）派生接尾辞 -sk [s(k)]（§ 18 (2)参照）

protestant-sk [protɛstánts(k)]「プロテンタントの」(← protestant [protɛstánt]「プロテンタント」)

sted-st → stedst [stɛts(k)]「都会的な」(← stêd [stɛ:t]「都市」)

Bilt-sk → Bilt-sk [bIlts(k)]「エド・ビルトの，エド・ビルト方言(の)」(← It Bild [əd bÍlt]「エド・ビルト（オ．Het Bildt エド・ビルト）」)

Sweed-sk → Sweedsk [swe:ts(k)]「スウェーデンの，スウェーデン語（の）」(← Sweden [swé:dən]「スウェーデン」)

§18 その他の子音の脱落と変化

(1) 異化 (de dissimilaasje)

ch [x] に s [s] が続くと，摩擦音の連続を避けて，ドイツ語のように chs [ks] という発音になることがある。

heechst [he:xst, he:kst] (← heech [he:x])「もっとも高い」

do liichst [li:xst, li:kst] (← lige [lí:γə])「君はうそをついている」

achtste [áxstə, ákstə]「第 8 の」

この現象はオランダ語の影響もあって少なくなりつつある。chs [xs] は chs [ks] となり得るが，義務的に chs [ks] である必要はない。

(2) 形容詞派生接尾辞 -sk の発音

(a) -sk [sk] と発音するもの

形容詞を派生する接尾辞 -sk は，アクセントをもつ音節で終わるたいてい 1 音節の形容詞(約 30 個)ではつづりどおりに sk [sk] と発音する (Van der Meer 1988：125)。

âldsk [ɔ:tsk]「老けた」　grutsk [grøtsk]「誇った，高慢な」

bernsk [bɛ:ⁿsk]「子供っぽい」　praatsk [pra:tsk]「話し好きな」

(b) かならずしも -sk [sk] と発音しないもの

その他の形容詞(「..語」という名詞としても用いる)では [s] と発音するのがふつうである。

Dûtsk [dyts(k)]「ドイツの；ドイツ語 (の)」

Ingelsk [Íŋəls(k)]「イギリスの；英語 (の)」

typysk [típis(k)]「典型的な」

変化語尾 -e [ə] がついても同様である。

Dûtske [dýts(k)ə] (← Dûtsk)　Ingelske [Íŋəls(k)ə] (← Ingelsk)

typyske [típis(k)ə] (← typysk)

Frysk [frisk]「フリースラントの，フリジア語(の)」だけは例外的に [k] を発音する傾向があるが，じっさいには Frysk [fris] という発音も広く行なわれている。

(a)を除いて，一般に -sk というつづりは現状にそぐわず，擬古的であるといえる（Van der Meer 1987：129 f.）。ただし，最近の若い世代では -sk［sk］というつづりに影響された発音が増えてきている。

(c) 合成語

合成語では Frysk も含めて上記(b)の語では一律に k を落とす。

Dútslân［dýtslɔ:n］「ドイツ」

Ingelsman［Íŋəlsmɔn］「イギリス人」

Fryslân［fríslɔ:n］「フリースラント」

(3) d の脱落

‘{ea［Iə］/ie［iə］}＋d’ で終わる 1 音節の語および合成語の成分では，語末の d が脱落することがある。語末以外では d は保たれる。

dea［dIə］「死んだ；死」　　deabêd［dÍəbɛ:t］「死の床」

⇔ deade［dÍədə］「死んだ（変化形）；死者」

kwea［kwIə］「悪い；悪」

⇔ kweade［kwÍədə］「悪い（変化形）；悪魔」

ûnderskie(d)［úndərskiə(t)］「区別，相違」

⇔ ûnderskiede［undərskíədə］「区別する」

trie(d)［triə(t)］「糸」⇔ triedden［trjÍdən］「糸（複数形）」

☞ hie［hiə］「もっていた」，wie［viə］「..だった」などの語形については(4)(b)参照。

(4) d の挿入

(a) 語形変化と派生語での d の挿入

語幹が r［r］で終わる語では，接尾辞 -er［ər］（形容詞比較級，名詞派生）の直前で d［d］を挿入する。

tsjuster［tʃǿstər］「暗い」→ tsjusterder［tʃǿstədər］「より暗い」

hiere［híərə］「貸す」→ hierder［híədər］「貸借人」

語幹が l［l］，n［n］で終わる語では次のようになる。

① d の挿入が任意である語

spylje [spíljə]「(競技，演奏などを) する」

→ spiler [spílər]/spylder [spíldər]「競技者，演奏者など」

② d の挿入の有無が決まっている語 (§ 35 参照)。

min [mIn]「悪い」→ minder [mÍndər]「より悪い」(*minner は不可)

tsjoene [tʃúənə]「魔法をかける」→ tsjoender [tʃúəndər]「魔法使い」(*tsjoener は不可)

ynwenje [í^{n}vɛ^{n}jə]「居住する」→ ynwenner [í^{n}vɛnər]「居住者」(*ynwender は不可)

(b) 単語間での発音上の d の挿入

一部の動詞の二重母音を含む 1 音節の過去形は，3 人称代名詞連接形 er [ər]「彼(主格)」が後続すると，発音上，[d] がそのあいだに挿入されることが多い。

hie [hiə] +er [ər]→ hie er [hiədər] (← hawwe [hávə])「彼はもっていた」

wie [viə] +er [ər]→ wie er [viədər] (← wêze [vɛ́:zə])「彼は..だった」

die [diə] +er [ər]→ die er [diədər] (← dwaan [dwa:n])「彼はした」

stie [stiə] +er [ər]→ stie er [stiədər] (← steane [stÍənə])「彼は立っていた」

koe [kuə] +er [ər]→ koe er [kuədər] (← kinne [kÍnə])「彼は..できた」

woe [vuə] +er [ər]→ woe er [vuədər] (← wolle [vɔ́lə])「彼は..したかったのだ」

soe [suə] +er [ər]→ soe er [suədər] (← sille [sÍlə])「彼は..かもしれない」

sei [sai, sɛi] +er [ər]→ sei er [saidər, sɛidər] (← sizze

[sÍzə]）「彼は言った」

lei [lai, lɛi] ＋er [ər]→ lei er [laidər, lɛidər]（← lizze [lÍzə, lɛ́:zə]）「彼は横たわっていた，横たえた」

☞ これは(3)で述べた「d の脱落」が起こった動詞の過去形がこの場合にだけかつての d を保っているためであり，歴史的には d の挿入とはいえない（Tiersma 1985：35)。

(5) 破擦音化

(a) まとめ

語幹が t, d で終わる語は，接尾辞 -je [jə] を伴うと，t, d と -je のあいだに s, z が挿入され，破擦音 -tsje [tʃə]（/tsjə/），-dzje [dʒə]（/dzjə/）になる。とくに弱変化動詞（Ⅰ）の活用では注意が必要である。

blêd [blɛ:t]「葉」→ bledsje [blɛ́tsjə]「葉（縮小形）」/blêdzje [blɛ́:dʒə]「ページをめくる，葉をつける」

不定詞 blêdzje [blɛ́:dʒə]

現在形	ik blêdzje [blɛ́:dʒə]		wy blêdzje [blɛ́:dʒə]
	do blêdest [blɛ́:dəst]	過去形	ik blêde [blɛ́:də]
	hy blêdet [blɛ́:dət]	過去分詞	ik haw blêde [blɛ́:də]

groet(e) [gruət(ə)]「挨拶」→ groetsje [grúətʃə]「挨拶する」

不定詞	groetsje [grúətʃə]		wy groetsje [grúətʃə]
現在形	ik groetsje [grúətʃə]	過去形	ik groete [grúətə]
	do groetest [grúətəst]	過去分詞	ik haw groete [grúətə]
	hy groetet [grúətət]		

(b) 破擦音化が起こらない場合

① 接尾辞 -je 以外による [tj], [dj] の連続

接尾辞 -je を伴う場合以外は，[tj], [dj] の連続があっても破擦音化は起こらない。

stiennen [stjÍnən]「石でできた」（*[stʃÍnən] とはならない）

studearje [stydjɛ́rjə, stydÍərjə]「大学で学ぶ，研究する」（*[stydʒɛ́rjə] とはならない）⇔ stúdzje [stýdʒə]「大学での勉学，

研究」

② 数詞 -t(s)jin

13 から 19 までの数詞は -tsjin [tʃən] を伴うが，これは -tjin [tjən] でもいい。

trettjin [trɛ̃tjən] ～ trettsjin [trɛ̃tʃən]「13」

fjirtjin [fjÍtjən] ～ fjirtsjin [fjÍtʃən]「14」

③ -dei [djə, di]

dei [dai, dɛi]「日」がアクセントをもたずに合成語の後半の成分として用いられると，-dei [djə, di] となり，*[dʒə] とはならない。

jierdei [jÍdjə, ..di]「誕生日」

middei [mÍdjə, ..di]「昼，午後」

tiisdei [tí:zdjə, ..di]「火曜日」

woansdei [vá:ⁿzdjə, vɛ́:ⁿzdjə, ..di]「水曜日」

(6) その他の変化

① h [h] + {[w]/[j]} → {[w]/[j]}

§ 12 (2)の子音 [h] の解説を参照。

② {m [m]/w [v]}+ [w] → {[m]/[w]}

§ 12 (3)(C)の解説を参照。

§ 19 同化 (de assimilaasje) とそれに類似した現象

(1) まとめ

ある音が隣接する音の影響を受けて，発音の方法や位置をその音に近づけるか，または同じ音になる現象を指す。先行する音が後続する音に影響を与えるものを「順行同化」(de {progressive/foarûtwurkjende} assimilaasje)，後続する音が先行する音に影響を与えるものを「逆行同化」(de {regressive/weromwurkjende} assimilaasje) という。

西フリジア語には逆行同化として，発音方法にかんする有声化の現象が見られる。一方，順行同化らしく見える現象は，特定の少数の語彙のみを

対象とするものや，音の配列（音素配列論 de fonotaktyk）にかんする制約によるものであり，逆行同化の場合とは性格を異にする。本書では，西フリジア語において厳密な意味での同化である逆行同化を狭義の同化として扱う。一方，西フリジア語のいわゆる順行同化は，広義の同化として記述はするものの，厳密には同化に類似した現象として区別するべきものである。

同化による音の変化は，語末音の無声化の場合とちがって，摩擦音でも正書法では表記されない。また，前章の個々の子音にかんする説明では，同化による音の変化の多くは扱っていない。たとえば，[g] の音は同化によって，語頭および語中でアクセントをもつ音節のはじめ以外の位置でも現われることがあるが，これは扱っていない(例　brûkber [brúgbər]「使用可能な」，ik bin [Ig bIn]「私は..です」)。

☞ 西フリジア語に順行同化を認めることには，以下に述べるような問題がある (Visser 1988 b)。

一般に，同化には単語内で起こる場合と単語間で起こる場合があるとされるが，厳密にはいずれも音の配列（音素配列論 de fonotaktyk）にかんする制約以外に該当するものを指すと理解される。たとえば，love [lɔ́:və]「ほめる (不定詞)」の [v] が do loofst [lo:fst]「君はほめる」で [f] と無声音になるのは，音節内で障害音（摩擦音および閉鎖音）の連続が有声か無声かに統一されなければならないという制約が西フリジア語にあるためであり (Visser 1988 b：2)，この無声化は狭義の同化には含まれない。また，こうした音の配列にかんする制約は，逆行か順行かという方向性とは無関係である。一方，次のように 2 語にまたがる場合（Visser 1988 b：3)，

① Ik *mis him.* [mIs]＋[əm] → [mIs-əm]「私は彼がいなくて寂しい」

② Ik *mis ien.* [mIs]＋[iən] → [mIz iən]「私はある人がいなくて寂しい」

②では，定動詞 mis [mIs]「いなくて寂しい」の無声摩擦音 [s] が母音で始まる ien [iən]「ある人」の直前で逆行同化による有声化を示しているのにたいして，①ではそうなっていない。これは①の him [əm]（[hIm] の弱形）「彼 (目的格)」が独立性を弱め，連接形 (it klitik) として，先行する定動詞 mis に前接し，形態論的には 2 語ながら，音韻論的には両者で 1 語 (it fonologyske wurd) を形成しているためと考えられる (Visser 1988 a)（このような連接形を「音韻論的連接形」(it fonologyske klitik) と呼ぶ)。つまり，①はちょうど misse [mÎsə]「いなくて寂しい（不定詞)」の [s] のように，単語の内部にあるために逆行同化による有声化がはたらかず，短母音の直後では摩擦音 (の連続) はほぼ無声音であるという西フリジア語の音の配列に

かんする制約に従っているためと考えられる。したがって，これも厳密な意味では同化とは異なる。
このように，狭義の同化は音韻論のレベルでの単語どうしの境界で起こる方向性をもった音韻規則に限定して理解することができる。その意味で，西フリジア語に順行同化を認めることには問題があるといえる。

(2) 同化（＝逆行同化）

(a) 摩擦音の有声化

① 有声閉鎖音の直前

無声摩擦音 [f]，[s]，[x] は有声閉鎖音 [b]，[d]，[g] の直前で有声化([b]，[d]，[g])する。複数の無声摩擦音についても起こる。

fytsbân [fíts-bɔ:n]→[fídzbɔ:n]「自転車のタイヤ」(Boersma/Van der Woude 1981²：64)

broeksbokse [bruks-bóksə]→[brugzbóksə]「ズボンの脚の部分」(ib. 64)

休止が置かれない場合，摩擦音の有声化は単語間にまたがって起こることがある。

Is der ien? [Is]＋[dər]→[Iz dər]「だれかいますか」(Fokkema 1967²：34，Anglade 1966：17)（→ [I dər])

② 有声閉鎖音以外の直前

単語間にまたがる場合には，閉鎖音以外の有声子音や母音の前でも有声化が起こる。

Us Wurk [ys]＋[vørk] → [yz vørk]「『ユズ・ヴルク』(＝私たちの仕事)；フローニンゲン大学フリジア語学科発行のフリジア語学文学の雑誌名」

Wiis my dat *ris oan.* [vi:s]＋[mɛi] → [vi:z mɛi]，[rəs]＋[oən] →[rəz oən]「ちょっとそれを私に見せてください」(Boersma/Van der Woude 1981²：66)

Draaf net sa hurd. [dra:f nɛt] → [dra:v nɛt]「そんなに早く馬を

走らせないでくれ」(ib. 66)

Ik *hoech letter* net wer te kommen. [hux lɛ́tər] → [huγ lɛ́tər]「私はあとでもう一度来る必要はない」(ib. 66)

Ik *seach wol* dat er net mear koe. [sIəx vol] → [sIəγ vol]「私は彼にはこれ以上無理なことがわかった」(ib. 66 変更)

Helje my in *reaf jern*. [rIəf jɛn] → [rIəv jɛn]「毛糸玉を1束とってちょうだい」(ib. 66)

(b) 閉鎖音の有声化：有声閉鎖音の直前

無声閉鎖音 [p], [t], [k] は有声閉鎖音 [b], [d], [g] の直前で有声化 ([b], [d], [g]) する。

opbelje [ɔ́p-bɛljə] → [ɔ́bbɛljə] → [ɔ́bɛljə]「電話する」

útgean [ýt-gIən] → [ýdgIən]「外に出る」

merkber [mɛ́rk-bɛr] → [mɛ́rgbɛr]「目立った」

複数の無声閉鎖音についても起こることがある。

rêstbêd [rɛ́:st-bɛ:t]→[rɛ́:zdbɛ:t]「休息用のベッド」(Boersma/Van der Woude 1981[2]：65)

waskguod [vɔ́sk-gwot] → [vɔ́zggwot] → [vɔ́zgwot]「洗濯物」(ib. 65)

休止が置かれない場合には，単語間にまたがって起こることがある。

Ik doch net mei. [Ik dox] → [Ig dox]「私はいっしょにはやらない」(ib. 95)

Dat gong net goed. [dɔt goŋ] → [dɔd goŋ], [nɛt guət] → [nɛd guət]「それはうまくいかなかった」(ib. 67 変更)

(3) 同化に類似した現象

以下に示す現象は従来，「順行同化」として扱われることが多かったものである。本書ではこれを狭義の同化とは区別して記す。

(a) d- [d] で始まる代名詞・冠詞・副詞の無声化

d- [d] で始まる代名詞・冠詞・副詞とは次の語を指す。

dat [dɔt]「あれ，それ (中性単数)」 dit [dIt]「これ (中性単数)」
dy [di]「あれ，それ(中性単数以外)」 dizze [dÍzə, dé:zə, dÍsə]「これ (中性単数以外)」 de [də]「定冠詞 (中性単数以外)」
do [do:u]「君 (主格)」 dy [dɛi, di]「君 (目的格)」 dyn [din]「君の」
doe [du]「そのとき」 dan [dɔn]「それから」 dêr(e) [dɛ́(:)r(ə)]「そこ，あそこ」 der [dər]「そこ」 dus [dø̂s]「したがって」
dochs [dɔxs]「しかし」

① 無声化する場合

上記の語の d- [d] は無声閉鎖音で終わる語の直後で d- [t] に無声化する。

Wat *komt dat* te kostjen? [kómt dɔt] → [kómt-tɔt] → [kómtɔt]「それはいくらかかることになるだろう」(Visser 1988 b：5 変更)

Dêr *komt dyn* trein al oan. [kómt din] → [kómt-tin] → [kómtin]「あそこに君の列車が来たよ」(ib. 5 変更)

It *komt dan* net klear. [kómt dɔn] → [kómt-tɔn] → [kómtɔn]「それはそれなら片づかない」(ib. 5 変更)

☞ これは一部の語だけを対象とした現象であり，先行する語に連接形として前接し，音韻論的に 1 語となっている場合に含まれる。西フリジア語では，音韻論的な単語の内部では閉鎖音の連続は無声音でなければならない (Visser 1988 b：7)。

② 無声化しないことがある場合

上記の語の d- [d] は [p], [k] で終わる語の直後にあって，しかもアクセントを置かれた場合には無声化しない。逆に，先行する語の語末音が (逆行) 同化によって有声化する。

Hy *hold dy* de hân boppe de holle. [hɔ́:t dɛi] → [hɔ́:t-tɛi] → [hɔ́:tɛi]；[hɔ:t dɛ́i] → [hɔ:d-dɛ́i] → [hɔ:dɛ́i]「彼は君の手をつかんで頭の上にあげた」(Visser 1988 b：5 変更)

Hast dy *snoek dêr* wol sjoen? [snúk dɛ:r] → [snúk-tɛ:r]；[snuk dɛ́:r] → [snug-dɛ́:r]「君はあのマス (＝魚) をそこで見ただろうか」

(ib. 5変更)

Ik *rôp doe* de plysje derby. [rɔ́:p du] → [rɔ́:p-tu]； [rɔ:p dú] → [rɔ:b-dú]「私はそこで警官を呼んだ」(ib. 5変更)

Pak do ek ris mei oan. [pák do:u] → [pák-to:u]； [pak dó:u] →[pag-dó:u]「君もひとつ身を入れてやってみたまえ」(ib. 5変更)

☞ これは上記の語が連接形ではなく，単独の語としてはたらいているためである。

次の用例では de [də]「定冠詞」，der [dər]「そこ」がアクセントをもつことができないので，かならず無声化が起こる。

Doe *ha'k de* jas krige. [há-k də] → [há-k-tə]/*[ha-g-də]「そのとき私はジャケットをもらった」(ib. 5変更)

Dat er al sa *faak der* west hat. [fá:k dər] → [fá:k-tər]/*[fa:g-dər]「彼がもう頻繁に(そこに)いたとは」(ib. 5変更)

☞ これは de [də]「定冠詞」，der [dər]「そこ」がつねに連接形として機能するためである。

☞ 同様に，'前置詞＋de (定冠詞)' が '前置詞＋'e (定冠詞弱形)' となる現象も狭義の同化には含まれない (§26(2)参照)。

(b) 3人称代名詞 se [sə] の有声化

3人称代名詞 se [sə]「彼 (女)(たち)」は母音および有声子音 (閉鎖音や '短母音＋摩擦音' を除く) の直後では，有声化した se [zə] として現われる。

Wie se dêr？ [viə-zə]「彼女はそこにいたのだろうか」(Fokkema 1967²：34，Anglade 1966：17))

Gean se efternei？ [gIə^{n}-zə]「彼らはあとから行くのだろうか」(Fokkema 1967²：34)

この場合，代名詞の se 以外の語では有声化した音は現われない。

Hy *die soms* sa raar. [diə soms]/*[diə-zoms]「彼はときどき変なことをした」(Visser 1988 a：194)

☞ 代名詞 se は連接形として直前の語に前接されるときには，[sə] とは別に，はじめから [zə] という音型をもっているといえる (Visser 1988 a：193 ff.)。

母音以外の音，あるいは閉鎖音を除く有声子音以外の音が直前にある次のような場合にも，se [zə] が現われる。

Ik *graaf se*. [gra:v-zə] (← grave [grá:və]「葬る」)「私は彼女を葬る」(Van der Meer/De Graaf 1986：305 変更)

Hy *lies se*. [liəz-zə] → [liəzə] (← lêze [lɛ́:zə]「読む」)「彼はそれらを読んだ」(ib. 305 変更)

有声子音が語末で無声化したものではない本来の無声子音の直後でも，次のように se [zə] が現われる。

Sa kin gjin *mins se* hast sjen. [me:ⁿs-zə]→[me:ⁿz-zə]→[me:ⁿzə]「それならだれでも彼女に会うのはまず無理だ」(Visser 1988 a：195)

Sa kin *Rins se* hast net sjen. [re:ⁿs-zə] → [re:ⁿz-zə] → [re:ⁿzə]「それならリーンス (人名) は彼女に会うのはまず無理だ」(ib. 195)

☞ これは mins se，Rins se がそれぞれ音韻論的に 1 語になっており，そのさい，長母音に後続する摩擦音 (の連続) は有声音であるという西フリジア語の音の配列にかんする制約に従っているためである。

☞ 閉鎖音や '短母音＋摩擦音' の直後では se [sə] として現われる。
skop se [skop-sə] (← skoppe [skɔ́pə]「蹴る」)
hold se [ho:t-sə] (← hâlde [hɔ́:də]「保つ」)
dat se [dɔt-sə] (dat [dɔt]「補文標識」)
straf se [straf-sə] (← straffe [stráfə]「罰する」)
mis se [mIs-sə]→[mIsə] (← misse [mÍsə]「..がいなくて寂しく思う」)
これは，音韻論的な単語の内部では閉鎖音の連続は無声音でなければならならず (Visser 1988 b：7)，また，短母音の直後では摩擦音 (の連続) はほぼ無声音であるという西フリジア語の音の配列にかんする制約に従って，[zə] が無声化を起こしているためである (Visser 1988 a：195)。

(c) 弱変化動詞(Ｉ) の過去形接尾辞

弱変化動詞(Ｉ) の過去形接尾辞 (it doetiidssuffiks) は有声子音の直後で -de [də]，無声子音の直後で -te [tə] となり，正書法でも区別する。

☞ この選択は直前の子音の影響によるが，弱変化動詞(I) だけを対象としている。また，

歴史的な立場をとるのでなければ，そもそも過去形接尾辞の基底形は現代西フリジア語の構造として -de［də］か -te［tə］か決定できない。これは後続する無声音の有声化でも有声音の無声化でもなく，後続音の有声・無声を指定するものであるから，狭義の同化とは異なる（Visser 1988 b：8 ff.）。

passe［pɔ́sə］「ぴったり合う（不定詞）」→ paste［pɔ́stə］（過去形）

smoke［smɔ́:kə］「タバコを吸う（不定詞）」→ smookte［smɔ́:ktə］（過去形）

miene［míənə］「思う（不定詞）」→ miende［míəndə］（過去形）

tille［tÍlə］「持ちあげる（不定詞）」→ tilde［tÍldə］（過去形）

fiede［fíədə］「..に食料を与える（不定詞）」→ fied-de［fíəddə］→ fiede［fíədə］（過去形）

語幹が -g［γ］を除く有声摩擦音で終わるものでは正書法が交替するが（z〜s，v〜f），これは正書法上の便宜にすぎない（§ 14 (1)(a)参照）。

bewege［bəvé:γə］「動かす（不定詞）」→ beweegde［bəvé:γdə］（過去形）

⇔ raze［rá:zə］「荒れる（不定詞）」→ raasde［rá:zdə］（過去形）

love［lɔ́:və］「ほめる（不定詞）」→ loofde［lɔ́:vdə］（過去形）

☞ 上記の場合に属する動詞はすべて語幹が長母音を含んでいるので，有声の摩擦音（の連続）が後続しても，西フリジア語の音の配列にかんする制約には抵触しない（Visser 1988 b：11）。

(d) 鼻音［n］の変化

鼻音［n］は後続音の種類によって変化を受けるが，先行音の種類によっても変化を受ける。

① 後続する音との連続

n［n］は後続する子音の種類によって発音の位置が前後に移動し，［m］または［ŋ］に変化する。

i）［n］→［m］

n［n］は唇音［p］，［b］，［m］の直前で［m］になる。

fan ûnpas［ún-pɔs］→［úmpɔs］「都合の悪い」

ûnbewend［ún-bəvɛnt］→［úmbəvɛnt］「不慣れな」（Fokkema

1967²：98)

ûnmooglik [un-mó:γlək] → [um-mó:γlək] → [umó:γlək]「不可能な」(Tiersma 1979：173)

ii) [n] → [ŋ]

n [n] は軟口蓋閉鎖音 [k], [g] の直前で n [ŋ] になる。

ûngerêst [ún-gərɛ:st]→[úŋgərɛ:st]「不安な」(Fokkema 1967²：98)

ûnklear [ún-klIər] → [úŋkIlər]「こわれた，航行不可能な，不明確な」

iii) 単語間で起こる場合

口語では休止が置かれない場合に，単語間にまたがって [n] の変化が起こることがある。

in minske [ən mé:ⁿskə] → [əm mé:ⁿskə] → [əmé:ⁿskə]「ひとりの人間」(Fokkema 1967²：102 変更)

in grutte iperenbeam [ən grǿtə] → [əŋ grǿtə]「大きな楡の木」(ib. 92)

iv) 鼻音化

[n] は '母音＋継続性子音([h] を除く)' の直前で消失し，先行する母音の鼻音化（§8）を引き起こす。用例は§8参照。

② 先行する音との連続

-en [ən] は音節化（§20）に続いて，上記の変化を起こすことがある。

iepen [íəpən] → [íəpn̩] → [íəpm̩]「開いた」(Fokkema 1967²：96)

liken [líkən] → [líkn̩] → [líkŋ̩]「似ている（lyk の変化形)」

☞ このように，[n] の変化は [m] および閉鎖音に隣接する場合，後続音との連続のみならず，先行音との連続でも起こる。一方，[t], [d] との連続では [n] は変化を受けない（つまり，/n/ が [n] として現われる)。これは [n] が後続・先行を問わず，隣接する [m] および閉鎖音との連続において，方向と関係なくつねに影響を受ける

ことを示しており，音の配列にかんする制約といえるので，狭義の同化とは異なる。

§20　音節化（de syllabisearring）

(1)　まとめ

英語の bottle［bɔ́tl̩］「瓶」やドイツ語の wissen［vÍsn̩］「知っている」のように，母音にかわって子音が独立した音節の核になることができる場合がある。西フリジア語ではアクセントのないあいまい母音［ə］の直後に続く鳴音(de sonorant, 鼻音 m［m］, n［n］, ng［ŋ］と流音 l［l］r［r］)がその子音にあたる。

ある子音に後続する‘あいまい母音＋鳴音’が同一音節にあるという条件が満たされる場合には，音節化が起こる(Dyk 1987：129)。-en［ən］では鼻音［n］の変化（§19(3)(d)）を伴うことがある。ただし，二重子音の縮約（§16）は起こらない。

biezem［bíəzəm］→［bíəzm̩］「ほうき」(Tiersma 1985：29)

libben［lÍbən］→［lÍbn̩］→［lÍbm̩］「生命，生きている」(Sipma 1913：36，Fokkema 1967²：140)

sangen［sáŋən］→［sáŋn̩］→［sáŋm̩］（← sang［saŋ］）「歌（複数形）」(Sipma 1913：27)

hynder［híndər］→［híndr̩］「馬」(Sipma 1913：28)

woartel［(v)wátəl］→［(v)wátl̩］「根」(Tiersma 1979：167 変更)

鳴音の直後には同一音節に属する子音として［t］または［s］が後続することがある。

biezems［bíəzəms］→［bíəzm̩s］「ほうき（複数形）」(Dyk 1987：128)

sjongend［ʃóŋənt］→［ʃóŋn̩t］→［ʃóŋm̩t］（← sjonge［ʃóŋə］）「歌いながら（sjonge の現在分詞）」(ib. 128)

音節化は口語的な現象であり，個人的・方言的差異もあって微妙である。注意深く発音するときには起こらない傾向がある。詩の朗読や歌唱でも音節化は起こりにくい。本書の単語の発音表記では音節化を示さず，じっ

さいの発音での注意を喚起するにとどめる。

(2) 個々の場合の特徴

(a) 音節化が2回（以上）起こる場合

次の例では音節化が2回起こっている。

se hannelen [hɔ́nələn] → [hɔ́nl̩n̩] (← hannelje [hɔ́nəljə])「彼らは商売をした」(Tiersma 1979：167, Tiersma 1985：29)

se hammeren [hámərən] → [hámr̩n̩] (← hammerje [hámərjə])「彼らはハンマーで強くたたいた」(ib. 167, ib. 29)

ここでは次に示すように，上記の条件がそろった右側の鳴音から音節化が起こっている。音節化を起こした鳴音は独立した音節となり，先行する音節には属さなくなる。音節化を起こした鳴音の直前の子音が先行する音節に新たに属することによって，音節の切れ目が変わり（再分節化 de resyllabifikaasje)，こうして再び音節化の条件が整うことになる。

se hannelen [hɔ́nələn] → [(hɔ́)(nə)(lən)] → [(hɔ́)(nə)(ln̩)] → [(hɔ́)(nəl)(n̩)] → [(hɔ́)(nl̩)(n̩)] → [(hɔn)(l̩)(n̩)] → [hɔ́nl̩n̩] (同上)

se hammeren [hámərən] → [(há)(mə)(rən)] → [(há)(mə)(rn̩)] → [(há)(mər)(n̩)] → [(há)(mr̩)(n̩)] → [(hám)(r̩)(n̩)] → [hámr̩n̩] (同上)

(b) 音節化が起こらない場合

① 'あいまい母音＋鳴音' が同一音節にない場合

'あいまい母音＋鳴音' が同一音節にない場合には，音節化は起こらない。たとえば，次の例では音節化による変化は見られない(Tiersma 1979：167, Dyk 1987：119)。

se ha hannele [hɔ́nələ] (← [(hɔ́)(nə)(lə)])「彼らは商売をした（現在完了形）」

se ha hammere [hámərə] (← [(há)(mə)(rə)]「彼らはハンマーで強くたたいた（現在完了形）」

hy hannelet [hɔ́nələt] (← [(hɔ́)(nə)(lət)])「彼は商売をする（現在

形)」

hy hammeret [hámərət] (←[(há)(mə)(rət)]「彼はハンマーで強くたたく(現在形)」

☞ 次の場合には1回だけ音節化が起こる。

hannelje [hɔ́nəljə] → [(hɔ́)(nəl)(jə)] → [(hɔ́)(nl̩)(jə)] → [(hɔ́n)(l̩)(jə)] → [hɔ́nl̩jə])「商売をする(不定詞)」

hammerje [hámərjə] → [(há)(mər)(jə)] → [(há)(mr̩)(jə)] → [(hám)(r̩)(jə)] → [hámr̩jə]「ハンマーで強くたたく(不定詞)」

hy hannelt [hɔ́nəlt] → [(hɔ́)(nəlt)] → [(hɔ́)(nl̩t)] → [(hɔ́n)(l̩t)] → [hɔ́nl̩t]「彼は商売をする(現在形 hannel(e)t)」

hy hammert [hámərt] → [(há)(mərt)] → [(há)(mr̩t)] → [(hám)(r̩t)] → [hámr̩t]「彼はハンマーで強くたたく(現在形 hammer(e)t)」

☞ hy hammert では音節化が起こる前に,「r の脱落」(§15) によって次の発音になることもある (Dyk 1987 : 131)。

hy hammert [hámərt] → [hámət]「同上」

② 'あいまい母音+鳴音' の直前に子音がない場合

'あいまい母音+鳴音' の直前に子音がない場合には,音節化は起こらない。たとえば,次の語では半母音または母音が直前にあるので,音節化による変化は見られない (Dyk 1987 : 128)。

boaiem [bwájəm]「床」　　fjouwer [fjɔ́uər]「4」

☞ 音節化と鼻音化 (§8),それに同化に類似した現象 (§19) については複雑な相互関係がある。詳細は Riermersma (1979) 参照。

V　アクセント (de klam)

§21　アクセント

(1)　まとめ

西フリジア語では語のアクセントは強弱による。アクセントをもつ音節は強いと同時に高く,もたない音節は弱いと同時に低いのがふつうである。現われかたはオランダ語と類似点が多い。

語のアクセントが文の中でさまざまな変化を受けることは言うまでもな

い。

文のイントネーション（de yntonaasje）は英語などと同じく，ふつう平叙文や補足疑問文（疑問詞疑問文）では低く終わり，選択疑問文や広く疑問表現一般では高く終わる。

以下では語のアクセントについて述べる。なお，本書では副アクセントは表記しない。以下でいうアクセントは語の主アクセントを指す。

(2) あいまい母音（de sjwa）

あいまい母音（[ə]）はアクセントをもたず，e の文字で表記されることが多い。しかし，e の文字以外でもアクセントをもたない母音は，たとえば次のようにあいまい母音として発音されることがある。

① 機能語（it funksjewurd）

in [ən]「不定冠詞」　　it [(ə)t]「それ」

ris [rəs]「かつて，ちょっと」⇔ ris [rIs]「備え」

② 外来語

fabryk [fəbrík]「工場」　　sigaar [səgá:r]「葉巻」

sjauffeur [sjəfǿər]「運転手」　　museum [məsé:əm]「博物館」

③ 接尾辞

-ich [əx]：nuttich [nǿtəx]「有益な」

-lik [lək]：dúdlik [dýdlək]「明らかな」

-sum [səm]：iensum [jÍ:ⁿsəm, íəⁿsəm]「孤独な」など

④ 合成語

-dei [djə, di]：middei [mÍdjə, mÍdi]「昼，午後」など

(3) 単一語のアクセント

2 音節以上の単一語では，一部の外来語を除いて一般にアクセントは第 1 音節にある。本来の西フリジア語の単一語の多くは 1 音節か 2 音節から成り，一般に 2 音節語ではアクセントは第 1 音節にあって，第 2 音節はあいまい母音をもつことが多い。語形変化でも同様である。

外来語はそうでないことがあり，ロマンス語などからの外来語では最終音節にアクセントがある場合が多い。

stasjon［staʃón］「駅」　elemint［IləmÍnt］「要素」
gemy［gImí］「化学」　grammatika［gramá:tika］「文法」

(4) 派生語のアクセント

(a) 接尾辞

① アクセントをもたない接尾辞

本来の西フリジア語の接尾辞（女性形 -inne［-Inə］を除く）。

-jə （縮小形）：boekje［búkjə］「本」（← boek［buk（稀 bu:k）］）
-dom （名詞）：frijdom［frɛ́idom］「自由」
-lik （形容詞）/-liks （副詞）：tydlik［tídlək］「一時的な」
tydliks［tídləks］「ときおり」など

② アクセントをもつ接尾辞

外来語（-inne［Inə］を除く）。

-inne （女性形）：freondinne［frøəndÍnə］「女友だち，恋人」
-ij （名詞）：fiskerij［fIskərɛ́i］「漁業」
-earje （動詞）：studearje［stydjɛ́rjə，..dÍərjə］「大学で勉強する」
-aal （形容詞）：ynternasjonaal［intərnaʃoná:l］「国際的な」など

(b) 接頭辞

接頭辞のアクセントはやや複雑である。

① アクセントをもたない接頭辞

外来語および以下の接頭辞。動詞につくと非分離動詞になる。

be-：begripe［bəgrípə］「理解する」
fer-：ferjitte［fəjÍtə］「忘れる」
ge-：genôch［gənɔ́:x］「十分な」
te-：tegearre［təgjɛ́rə］「いっしょに」
ûnt-：ûntjouwing［untjɔ́uIŋ］「発達」

② アクセントをもつ接頭辞

以下の接頭辞（④の場合に注意）。

ant-：ferantwurding［fərɔ́ntvødIŋ］「責任」

oar-：oardielje［ɔ́ədiəljə］「判断する」

③ アクセントの有無が一定しない接頭辞

ûn-［un］：ûnaardich［unáːdəx］「感じの悪い」⇔ ûngelyk［úŋgəlik］「同じでない；不当」

分離動詞をつくるときにはアクセントをもつ。

mis-［mIs］：misbrûke［mIzbrúkə］「乱用する（非分離動詞）」⇔ misgean［mÍzgIən］「うまくいかない（分離動詞）」

oer-［uə(r)］：oerdriuwe［uədrjýwə, ..drjɔ́ːwə］「誇張する（非分離動詞）」⇔ oerdriuwe［úədrjywə, ..drjoːwə］「通り過ぎる（分離動詞）」

④ 品詞によってアクセントの交替が見られる場合

形容詞接尾辞 -ich［əx］, -lik［lək］, -sum［səm］が多音節語に付加されると，オランダ語と同様にアクセントが後半部に移動し，あいまい母音を除く母音を含む音節に置かれる。

wanhope［vɔ́nhoːpə］「失望」→ wanhopich［vɔnhɔ́ːpəx］「失望した」

mienskip［míəⁿskIp］「共同体」→ mienskiplik［miəⁿskÍplək］「共同体の」

arbeidzje［árbaidʒə, ..bɛi..］「働く」→arbeidsum［arbáitsəm, ..bɛ́i..］「勤勉な」

②の ant-, oar-もこれに従う。

ferantwurding［fərɔ́ntvødIŋ］「責任」→ ferantwurdlik［fərɔntvǿdlək］「責任感のある」

oarsprong［ɔ́əsproŋ］「起源」→ oarspronklik［oəsprɔ́ŋklək］「元来の」

(5) 合成語のアクセント

合成語のアクセントはふつう第1成分にあるが，次のような合成語は第2成分以下にアクセントがある。

① ‘形容詞＋名詞’の合成語

大小，新旧，色彩などの形容詞がついたもの。日常生活になじみがあり，愛着などの感情がこめられていることがある。名詞句ではなく，合成語であり，1語でつづる。

âldfeint [ɔ:tfáint, ..fɛ́int]「年配の独身者」

jongkeardel [jɔŋkÍədəl]「若者」　nijjier [nɛi(j)íər]「新年」

Aldfrysk [ɔ:tfrísk]「古フリジア語」readkryt [rIətkrít]「赤土」

② 一部の地名

Easterwâlde [jɛstərvɔ́:də]「イエステルヴォーデ(オ．Oosterwolde オーステルヴォルデ)」

It Hearrenfean [ət jɛrə^{n}fÍən, ..jɛrəfÍən]「エト・イェレンフェアン（オ．Heerenveen ヘーレンヴェーン)」

Skiermûntseach [skiərmuntsÍəx, skiəmuntsÍəx]「スキエルムンツェアハ島（オ．Schiermonnikoog スヒールモニコーホ島)」

③ 特定の語彙を第1成分とするもの

juster-「昨日」: justerjûn [jøstərjún（稀 ..ju:n)]「昨晩」

justeroerdei [jøstəruədái]「昨日の午後」

boere-(← boer [buər]「農民」): boeretaal [buərətá:l]「農民の言葉」 boerelân [buərəlɔ́:n]「田舎，農業国」

④ その他

sted(s)hûs [stɛt(s)hú:s]「市役所」

boargemaster [bwarɣəmástər]「市長」

nijjiersdei [nɛi(j)iəzdái, ..dɛ́i]「元旦」

⑤ オランダ語の影響で第1音節へアクセントが移動しつつあるもの

seedyk [se:dík]（本来のアクセント)/ [sé:dik]（最近の傾向)「海岸の堤防」

正書法 (de stavering)

§ 22 母音字

以下の記述はe [ə] と -dei [djə, di] を除いて，アクセントをもつ音節に限る。鼻音化は除く。外来語でe以外の母音字をあいまい母音として発音する場合は，eの文字に変えて表記してもいい (Zantema 1984：18)。

famylje/femylje [fəmíljə]「家族」

sjauffeur/sjefeur [ʃəfǿər]「運転手」

本書ではe以外の文字を用いる場合だけを記す。

a [a] 閉音節。

pakke [pákə]「つかむ」

[a:] 開音節。

pake [pá:kə]「祖父」

ただし，語末ではta [ta]「..へ，..について」，sa [sa]「そのように，そうして」など。

[ɔ] 閉音節で歯茎音s，l，d，t，nの前。

passe [pɔ́sə]「ぴったり合う」

ただし，脱落したrの直後・短母音化・いわゆる「のぼり二重母音」の [wa] では [a]。

swart [swat]「黒い」(rの脱落)

twadde [twádə]「第2の」(← twa [twa:]「2」，短母音化)

moanne [mwánə]「月」(いわゆる「のぼり二重母音」)

例外： [mástər]「親方，長」など，最近の外来語。

â [ɔ:] 閉音節と開音節。ld，lt，nの直前 (ô 参照)。

bân [bɔ:n]「リボン」

lの直前では対応するオランダ語の語形にaがある場合。

nâle [nɔ́:lə]「へそ」(オ. navel [ná:vəl])

aa　[a:]　閉音節。

baan [ba:n]「軌道，滑走路」

aai　[a:i]　kaai [ka:i]「鍵」

ai　[ai]　比較的少数の語。

laitsje [láitʃə]「笑う」

aai [a:i]（/a:j/）の短母音化。

aike [áikə]（/ájkə/）（← aai [a:i], /a:j/）「卵（縮小形）」

au　[ɔu]　rau [rɔu]「生の」

e [ə] が続くときは auwe [ɔuə]。

rauwe [rɔ́uə]「生の（変化形）」

e　[ɛ]　閉音節。

rek [rɛk]「たな」

[e:]　開音節。

regel [ré:γəl]「規則」

[ɛ:]　閉音節と開音節。少数の語。

gers [gɛ:s]「草，草地」

[ə]　アクセントのない音節。

men [mən]「(話者も含めて一般に）人は」

ê　[ɛ:]　lêze [lɛ́:zə]「読む」

ee　[e:]　閉音節。

reek [re:k]「煙」

ただし，語末で　see [se:]「海」など。

ea　[Iə]　くだり二重母音。

peal [pIəl]「杭」

[jɛ]　いわゆる「のぼり二重母音」。

peallen [pjɛ́lən]「杭（複数形）」

eau　[jo:u]　skreau [skrjo:u]「叫び」

e [ə] が続くときは　eauwe [jo:wə]。

skreauwe [skrjó:wə]「叫ぶ」

[øə]　語幹が -iuw [jyu, jo:u] で終わる強変化動詞の過去形・過去分詞など（過去形は [jo:u, øə]）。

ik skreau [skrjo:u, skrøə]「私は書いた（過去形）」

ik haw skreaun [skrøən]「私は書いた（過去分詞）」

(← skriuwe [skrjýwə, skrjó:wə])

ei　[ai]　heit [hait]「父」

[εi]　ヴォーデン方言（Wâldfrysk）。

heit [hεit]「父」

☞ クラーイ方言（Klaaifrysk）では [ai] のほかに [ɔi] もあるが（Dijkstra 19922：59），一般的ではないので本書では割愛する。

ただし，最近の外来語ではヴォーデン方言以外でも [εi] のみ。

kapasiteit [kapasitɛ́it]「能力」

-dei　[djə, di]

dei [dai, dεi]「日」との合成語で本来の西フリジア語の語彙。

jierdei [jÍdjə, ..di]「誕生日」⇔ feestdei [fé:zdai, ..dεi]「祝日」

-heid [hit, (hait, hεit)]

[hait, hεit] はつづり字に引きずられた発音で好ましくない。

minskheid [mé:ⁿskhit, (..hait, hεit)]「人間性」

eo　[øə]　sneon [snøən]「土曜日」

eu　[ø:]　r の直前以外。

fleugel [flǿ:γəl]「翼」

[øə]　r の直前。

geur [gøər]「香り」

i　[I]　閉音節。

sik [sIk]「ヤギ」

[i]　開音節。

sike [síkə]「呼吸」

[i:] 開音節。

sike [sí:kə]「病人」

y [i] 閉音節。

sykje [síkjə]「探す；呼吸する」

[εi] 次の人称代名詞と前置詞。

hy [hεi]「彼（主格）」 wy [vεi]「私たち(主格)」

sy [sεi]「彼女；彼(女)ら(主格)」

my [mεi]「私（目的格)」dy [dεi]「君（目的格)」；

by [bεi]「..のところに」

ヴォーデン方言(Wâldfrysk)ではそれぞれ hy [hi], sy [si], wy [vi], my [mi], dy [di]；by [bi]。

ii [i:] 閉音節。

siik [si:k]「病気の」

ij [εi] nij [nεi]「新しい」

ie [iə] くだり二重母音。

stien [stiən]「石」

[jI] いわゆる「のぼり二重母音」。

stiennen [stjÍnən]「石（複数形)」

ieu [i:u] 少数の語。

Sieu [si:u]「ゼーラント（Seelân/オ．Zeeland）の人」

e [ə] が続くときは ieuwe [i:wə]。

Sieuwen [sí:wən]「ゼーラントの人々（複数形)」

iuw ともつづる語があり，その場合は iuw が一般的(Dijkstra 1992[2]：70)。

mieu [mi:u]/miuw [mjyu]「カモメ」

iuw [jyu, jo:u]

[jyu] は南部と西部の発音。

ik skriuw [skrjyu, skrjo:u]「(私は）書く」

skriuwe [skrjýwə, skrjó:wə]「書く（不定詞）」

o [o] 閉音節。

hok [hok]「どんな」

[ɔ] 閉音節。

hok [hɔk]「物置」

[o:] 開音節。

hope [hó:pə]「希望」

[o:u] 1音節の語末。

ko [ko:u]「雌牛」。

e [ə] が続くときは owe [o:wə]。

kowestâl [kó:wəstɔ:l]「牛舎」

ô [ɔ:] 閉音節と開音節。ld, lt, n の直前以外（â 参照）。

hôf [hɔ:f]「果樹園，庭，墓地」

l の前では対応するオランダ語の語形に o がある場合。

fôle [fɔ́:lə]「子馬」（オ. veulen [vø̂:lə(n)]）

oo [o:] 閉音節。

hoopje [hó:pjə]「希望する」

oa [oə] くだり二重母音。

doar [doər]「ドア」

[wa] いわゆる「のぼり二重母音」。

moardzje [mwádʒə]「殺害する」

[s], [t], [d], [k] の直後では [va] と発音することがある。

doarke [dwárkə]～[dvárkə]「ドア（縮小形）」

[a] 少数の語。

moatte [mátə, mwátə]「..しなければならない」

oai [o:i] koai [ko:i]～[kwa:i]「(船室の) 寝台」

[wa:i] 少数の語。

[s], [t], [d], [k] の直後では [va:i] と発音することがある。

koai [kwa:i]〜[kva:i]「(鳥の巣を荒らしたときに盗んだ卵のかわりに置いておく) にせ卵」

[wai] 少数の語。

boai [bwai]「男の子」

[s], [t], [d], [k] の直後では [vai] と発音することがある。

oe [uə] boer [buər]「農夫」

[u] 閉音節と開音節。対応するオランダ語が oe, oo の場合，とくに k, ch, g の直前。

droech [drux]「乾いた」 droege [drúγə]「同左(変化形)」

[u:] 閉音節と開音節。oe [u] と同様の場合。

boech [bu:x]「船首」 boegen [bú:γən]「船首 (複数形)」

oei [u(:)i] groei [gru(:)i]「成長」

ou [ɔu] grou [rɔu]「太った，大まかな」。

e [ə] が続くときは ouwe [ɔuə]。

grouwens [grɔ́uə^{n}s]「太っていること，大まかなこと」

u [ø] 閉音節。

nut [nøt]「利益」

[y] 開音節。

nuten [nýtən] (← nút [nyt])「クルミ (複数形)」

[y:] 開音節。

tugen [tý:γən] (← túch [ty:x])「馬具，(船の) 索具 (複数形)」

û [u] 閉音節と開音節。n の直前，外来語，対応するオランダ語が ui, eu の場合，および対応するオランダ語がない場合。

(ge-)brûk [(gə)brúk]「使用」(オ. gebruik [γəbrœ́yk])

brûke [brúkə]「使う」(オ. gebruiken [γəbrœ́ykən])

[u:] 閉音節と開音節。û [u] と同様の場合。

bûch [bu:x]「しなやかさ」 bûge [bú:γə]「曲げる」

ú [y] 閉音節。

tûch [tyx]「くず，雑草」

[y:] 閉音節。

tûch [ty:x]「馬具，(船の) 索具」

ue [yə] くだり二重母音。

flues [flyəs]「膜」

[jø] いわゆる「のぼり二重母音」。少数の語。

fluezzen [fljøzən]/fluezen [flýəzən] (← flues [flyəs])「膜(複数形)」

uo [wo] いわゆる「のぼり二重母音」。

muorre [mwórə]「壁，城壁」

[s], [t], [d], [k] の直後では [vo] と発音することがある。

tuorren [twórən]～[tvórən] (← toer [tuər])「塔(複数形)」

ui [œy] stuit [stœyt]「瞬間」

y i の項を参照

§23 子音字

同化，縮約，脱落，音節化などの現象の多くは除く。子音字の重複 (bb, ss など) は次の章で扱う。

b [b] 語末音以外。

ribbe [rÍbə]「肋骨」

[p] 語末音。

ribke [rÍpkə] (← ribbe [rÍbə])「肋骨 (縮小形)」

ch [x] each [Iəx]「目」 eachje [Íəxjə]「目 (縮小形)」

kachel [káxəl]「暖炉」

chs [xs, ks] achtste [áxstə, ákstə]「第 8 の」

d [d] 語末音以外。

rêden [rɛ́:dən] (← rêd [rɛ:t])「車輪 (複数形)」

[t] 語末音。

rêd [rɛ:t]「車輪」

dzj　[dʒ]　/d/＋/z/＋/j/ の連続と解釈される。

wiidzje [ví:dʒə]「広げる」

f　[f]　fiif [fi:f]「五」

[ゼロ] ôf [ɔ:]「(..から) 離れて」

oft [ɔt]「..かどうか」⇔ of [ɔf]「あるいは」

g　[g]　語頭。

gast [gɔst]「客」

語中でアクセントをもつ音節のはじめ。

regear [rəgÍər]「政府」

[γ]　それ以外。

eagje [Íəγjə]「眺める」

eagen [Íəγən] (← each [Iəx])「目 (複数形)」

wy dogge [dóγə] (← dwaan [dwa:n])「私たちはする」

h　[h]　himel [híməl]「空」

[ゼロ] j の前。

hjerst [jɛst]「秋」

いわゆる「のぼり二重母音」の直前。

hearre [jɛ́rə]「聞く」　hoanne [wánə]「雄鶏」

j　[j]　jeie [jáiə, jɛ́iə]「狩る，追い立てる」

[(j)]　[i] の前。

jier [(j)iər]「年」

k　[k]　koken [kó:kən]「台所」

l　[l]　leppel [lɛ́pəl]「スプーン」

[ゼロ] âld, âlt の場合。

kâld [kɔ:t]「寒い，冷たい」　sâlt [sɔ:t]「塩」

例外：spâlt [spɔ:lt]「割れ目」など。

次の動詞の変化形。

do silst [sIst] (← sille [sÍlə])「君は..だろう」

do wolst [vost] (← wolle [vólə])「君は..したい」

m　[m]　mem [mɛm]「母」

n　[n]　namme [nǽmə]「名前」

　[ゼロ] 鼻音化（§8）を起こして消える。

　gâns [gɔ:ⁿs]「まったく，多くの」

ng　[ŋ]　wang [vaŋ]「頬」

nk　[ŋk]　wankje [vǽŋkjə]（← wang [vaŋ]）「頬（縮小形）」

p　[p]　pomp [pomp]「ポンプ」

r　[r]　rjochter [rjóxtər]「裁判官」

　[ゼロ] 歯茎音 [s]，[z]，[l]，[d]，[t]，[n] の直前。

　moarn [moən]「朝」

　例外：最近の外来語。

　sport [spɔrt]「スポーツ」

s　[s]　seis [sais, sɛis]「6」

　doaske [dwǽskə]（← doaze [dóəzə]）「袋（縮小形）」

　[z]　最近の外来語。

　fysiology [fiziologí]「生理学」

sj　[ʃ]　/s/＋/j/ の連続と解釈される。

　sjen [ʃɛn]「見る」

-sk　[s(k)]　大多数の派生形容詞。

　Nederlânsk [né:dərlɔ:ⁿs(k)]「オランダ語」

　ただし，少数の1音節の派生形容詞は [sk]。

　grutsk [grøtsk]「誇り高い」

　他の品詞ではつねに [sk]。

　fisk [fIsk]「魚」(名詞)

t　[t]　ticht [tIxt]「密な，濃い」

ts　[ts]　破擦音。/t/＋/s/ の連続と解釈される。

　tsien [tsiən]「10」

tsj　[tʃ]　/t/＋/s/＋/j/ の連続と解釈される。

　tsjettel [tʃétəl]「やかん」

v　[v]　brieven [bríəvən] (← brief [briəf])「手紙（複数形）」

[f]　最近の外来語。

advokaat [atfəká:t]「弁護士」

w　[v]　語頭。

wyn [vin]「風；ワイン」

[u]　語末（-iuw のみ）。

ik kliuw [kljyu, kljo:u] (← kliuwe [kljýwə, kljó:wə])「私は登る」

[w]　leauwe [ljó:wə]「信じる」

[s], [t], [d], [k] の直後では [v] と発音することがある。

dwerch [dwɛrx]～[dvɛrx]「小人」

[v]　例外：hawwe [hávə]「もっている（不定詞）」

ik ha(w) [ha(v), ha(f)]「私はもっている」

z　[z]　tsizen [tsí:zən] (← tsiis [tsi:s])「チーズ（複数形）」

zj　[ʒ]　/z/＋/j/ の連続と解釈される。

freezje [fré:ʒə]「恐れる」

§24　正書法上の注意点

(1)　子音字の重複

(a)　母音の長短の区別

① 子音字の重複をする場合

アクセントをもつ直前の母音が短母音であることを示すために，他の子音字が後続しない場合に，正書法上，子音字を重ねて閉音節（子音字で終わる音節）にする（§3(2)参照）。

ただし，母音字 a, e, i [I], o [o], u のみ。

dak [dak]「屋根」－dakken [dákən]「同左（複数形）」

tel [tɛl]「数」－tellen [tɛ́lən]「同左（複数形）」

hin [hIn]［めんどり」－hinnen [hÍnən]「同左（複数形）」

bok [bok]「雄ヤギ」－bokken [bókən]「同左（複数形）」

hut [høt]「小屋」－hutten [hǿtən]「同左（複数形）」

② 子音字の重複をしない場合：高舌母音

直前の母音字が高舌母音 i [i]/[i:]，ú [y]/[y:]，u [y]/[y:]，û [u]/[u:]，oe [u]/[u:] である場合には，短母音であっても子音字を重複しない。したがって，正書法上，母音の長短があいまいである。

i) i [i]⇔ i [i:]（開音節）

sike [síkə]「呼吸」⇔ sike [sí:kə]「病人」

ii) ú [y]⇔ ú [y:]（閉音節）

túch [tyx]「くず，雑草」⇔ túch [ty:x]「道具」

iii) u [y]⇔ u [y:]（開音節）

nuten [nýtən] (← nút [nyt])「クルミ」⇔ tugen [tý:γən] (← túch [ty:x])「道具（複数形）」

iv) û [u]⇔ û [u:]（閉音節）

brûk [bruk]「使用」⇔ bûch [bu:x]「しなやかさ」

v) û [u]⇔ û [u:]（開音節）

brûke [brúkə]「使う」⇔ bûge [bú:γə]「曲げる」

vi) oe [u]⇔ oe [u:]（閉音節）

broek [bruk（稀 bru:k)]「ズボン」⇔ boech [bu:x]「船首」

vii) oe [u]⇔ oe [u:]（開音節）

broeken [brúkən]「ズボン(複数形)」⇔ boegen [bú:γən]「船首(複数形)」

一般に長母音や二重母音に無声摩擦音（語末で無声化している場合を除く）が後続することはないので，この点で区別がつくことがある。ただし，短母音に有声摩擦音が後続することはある(Visser 1988 b：11)。

③ 子音字の重複をしない場合：無アクセント母音

母音がアクセントをもたない場合には，子音字の重複はしない。

Amsterdammer [amstərdámər]「アムステルダム (Amsterdam)

の人」⇔ Dokkumer [dɔ́kəmər]「ドクム (Dokkum) の人」

(b) 二重母音の区別

① 子音字の重複の有無で区別する場合

直前の母音が「割れ」によるいわゆる「のぼり二重母音」であることを示すために，子音字が1つだけ続く場合には，正書法上，子音字を重ねる。直前の母音がくだり二重母音である場合には，子音字の重複はしない。oe [uə] と uo [wo] の交替は正書法でも示される。

i) ie [iə]⇔ ie [jI]

hieren [híərən] (← hier [hiər])「家賃 (複数形)」

⇔ hierren [jÍrən] (← hier [hiər])「毛 (複数形)」

ii) ea [Iə]⇔ ea [jɛ]

fearen [fÍərən] (← fear [bIər])「フェリー (複数形)」

⇔ fearren [fjɛ́rən] (← fear [fIər])「羽根 (複数形)」

iii) oe [uə]⇔ uo [wo]

toeren [túərən] (← toer [tuər])「回転，ドライブ (複数形)」

⇔ tuorren [twɔ́rən] (← toer [tuər])「塔 (複数形)」

iv) oa [oə]⇔ oa [wa]

soalen [sóələn] (← soal [soəl])「水路 (複数形)」

⇔ soallen [swɑ́lən] (← soal [soəl])「足の裏 (複数形)」

v) (稀：ue [yə]⇔ ue [jø]

fluezen [flýəzən] (← flues [flyəs])「膜 (複数形)」

⇔ fluezzen [fljǿzən]「同上 (稀)」)

② 子音字の重複をしない場合

子音字が2つ以上後続する場合には，子音字の重複はしない。したがって，oe [uə]/uo [wo] を除いて「割れ」の有無があいまいである。

i) ie [iə]⇔ ie [jI]

hierder [híədər] (← hier [híərə]「借りる」)「借家人」

⇔ hierke [jÍrkə (稀 híərkə)] (← hier [hiər])「毛 (縮小形)」

ii) ea [Iə]⇔ ea [jɛ]

feart [fIət]「運河, 航行」⇔ fearten [fjɛ́tən]「同左 (複数形)」

iii) oe [uə]⇔ uo [wo]

toerke [tûərkə] (← toer [tuər])「回転, ドライブ (縮小形)」

⇔ tuorke [twórkə] (← toer [tuər])「塔 (縮小形)」

iv) oa [oə]⇔ oa [wa]

soaltsje [sóəltʃə] (← soal [soəl])「水路 (縮小形)」

⇔ soaltsje [swáltʃə (稀 sóəltʃə)] (← soal [soəl])「足の裏 (縮小形)」

(2) 母音字の表記

(a) o [o] と o [ɔ] の区別

閉音節で o [o] と o [ɔ] の区別があいまいである。

hok [hok]「どんな」⇔ hok [hɔk]「物置」

(b) û [u]/[u:] と oe [u]/[u:] の区別

とくに k, ch, g の直前で û と oe の区別があいまいである。オランダ語の ui/eu と oe/oo の区別に依存することがある。

① û [u]⇔ oe [u] (閉音節)

(ge-)brûk [(gə)brúk]「使用」(オ. gebruik)

⇔ broek [bruk (稀 bru:k)]「ズボン」(オ. broek)

② û [u]⇔ oe [u] (開音節)

brûken [brúkən] (← brûke [brûkə])「使う (動名詞)」(オ. gebruiken) ⇔ broeken [brúkən]「ズボン (複数形)」(オ. broeken)

③ û [u:]⇔ oe [u:] (閉音節)

bûch [bu:x]「しなやかさ」(オ. buigzaamheid)

⇔ boech [bu:x]「船首」(オ. boeg)

④ û [u:]⇔ oe [u:] (開音節)

bûgen [bú:γən] (← bûge [bú:γə])「曲げる (動名詞)」(オ. buigen)

⇔ boegen [bú:γən]「船首（複数形）」（オ．boegen）

(c) â [ɔ:] と ô [ɔ:] の区別

â [ɔ:] と ô [ɔ:] の区別があいまいな場合がある。オランダ語の a と o の区別に依存することがある。

stâl [stɔ:l]「家畜小屋」（オ．stal）

⇔ rôlje [rɔ́:ljə]「転がる」（オ．rollen）

(d) その他

語形変化での正書法上の一致を考慮したために，じっさいの発音とのずれが生じている場合がある。たとえば，次の語では正書法上の一致を考慮して â，ô とはつづらない。

manlju [mɔ́:ⁿljø̞]（← man [mɔn]）「男の人（複数形）」

froulju [frɔ́:ljø̞]（← frou [frɔu]）「女の人（複数形）」

(3) w の表記

[u] で終わる二重母音および‘母音＋半母音 /w/’では，w の表記に注意が必要である。

① 二重母音：au [ɔu]，ou [ɔu]

e [ə] が後続する場合には w を加えて表記する。発音上は auwe [ɔuə]，ouwe [ɔuə] のように [ə] だけが加わる。

rau [rɔu]「生の」－rauwe [rɔ́uə]「生の（変化形）」

rou [rɔu]「粗い，荒々しい」－rouwe [rɔ́uə]「喪」

② ‘母音＋半母音 /w/’：eau [jo:u]（/jo:w/），ieu [i:u]（/i:w/），o [o:u]（/o:w/）

e [ə] が後続する場合には w を加えて表記する。発音上は eauwe [jo:wə]，ieuwe [i:wə]，owe [o:wə] のように [u] が [w] に変わって [ə] が加わる。

skreau [skrjo:u]「叫び」－skreauwe [skrjó:wə]「叫ぶ」

Sieu [si:u]「ゼーラント（Seelân，オ．Zeeland）の人」－

Sieuwen [sí:wən]「ゼーラントの人（複数形）」

ko [ko:u]「雌牛」－kowestâl [kɔ́:wəstɔ:l]「牛舎」

③ '母音＋半母音 /w/'：iuw [jyu, jo:u], iuw [jyu] (＝ieu [i:u]) e [ə] が後続しなくても w を加えて表記する。e [ə] が後続する場合には，発音上は iuwe [jywə, jo:wə] のように [u] が [w] に変わって [ə] が加わる。

ik skriuw [skrjyu, skrjo:u]「(私は) 書く」－skriuwe [skrjýwə, skrjɔ́:wə]「書く (不定詞)」

miuw [mjyu] (mieu [mi:u])「カモメ」－miuwen [mjýwən] (mieuwen [mí:wən]「カモメ (複数形)」

(4) 大文字書き

固有名詞とその形容詞形は語頭を大文字で書く。曜日，月名は大文字書きしない。

Fryslân [fríslɔ:n]「フリースラント」 Fries [friəs]「フリジア人」

Frysk [frisk]「フリースラントの；フリジア語 (の)」

⇔sneon [snøən]「土曜日」 snein [snain, snɛin]「日曜日」

maaie [má:jə]「5月」 septimber [sɛptÍmbər]「9月」

§25 旧正書法との対応

現行の西フリジア語の正書法は 1976 年の改正に従って，1980 年 1 月 1 日に導入された。それ以前の文献を読むときには，旧正書法との対応を知っておく必要がある。Zantema (1984：17 f.) に基づいて以下に記す。('旧正書法' ＞ '現行の正書法' の順)。

① 閉音節の ae は aa とつづる。

faem＞faam [fa:m]「娘」

② 語末の é は ee とつづる。

fé＞fee [fe:]「家畜；妖精」

③ oo のように発音する ou は開音節で o，閉音節で oo とつづる。

kou＞ko [ko:u]「雌牛」 skouwe＞skowe [skɔ́:wə]「押す」

skoust＞skoost［sko:st］「(君は) 押す」

④ to と接頭辞の to-/for- の o は e とつづる。

to＞te［tə］「..へ」　tobek＞tebek［təbɛ́k］「後ろへ」

forhael＞ferhaal［fərhá:l］「物語」

⑤ 接頭辞 bi- の i は e とつづる。

bisjen＞besjen［bəʃɛ́n］「よく見る」

⑥ わたり音の j はつづらない。

bloeije＞bloeie［blú(:)jə］「咲く」

⑦ 長母音の直後の子音は重複してつづらない。

rânne＞râne［rɔ́:nə］「縁」

⑧ w の直前の黙字の h はつづらない。

hwa＞wa［va:］「だれ」

⑨ n の直前の ou は û とつづる。

joun＞jûn［jun（稀 ju:n)］「晩」

⑩ r の直前の û は oe とつづる。

fjûr＞fjoer［fjuər］「火」

⑪ 次の 3 語の u は eu とつづる。

gunst＞geunst［gø:ⁿst］「好意」　kunst＞keunst［kø:ⁿst］「芸術」

munster＞meunster［mǿ:ⁿstər］「大聖堂」

⑫ 接尾辞 -heit は -heid とつづる。

wysheit＞wysheid［vísit（..hait, ..hɛit)］「知恵」

⑬ 次の 4 語の t は d とつづる。

gebet＞gebed［gəbɛ́t］「祈り」　gebot＞gebod［gəbɔ́t］「命令」

helt＞held［hɛlt］「英雄」　gewelt＞geweld［gəvɛ́lt］「暴力」

⑭ -d の直後の縮小辞 -tsje は -sje とつづる。

wurdtsje＞wurdsje［vǿtsjə］（← wurd［vøt］)「語（縮小形)」

⑮ great の ea は u とつづる。

great＞grut［grø(:)t］「大きい」

⑯ jaan［ja:n］「与える」の現在形と派生語の ow は ou とつづる。

ik jow>ik jou [jɔu]「私は与える」

wy jowe>wy jouwe [jɔ́uə]「私たちは与える」

útjower>útjouwer [ýtjɔuər]「出版社」

⑰ jaan の過去分詞の ow は û とつづる。

ik haw jown>ik haw jûn [jun (稀 ju:n)]「私は与えた」

⑱ 次の 3 語の aw は â とつづる。

ik ha hawn>ik ha hân [hɔ:n]「私は持っていた」

sawn>sân [sɔ:n]「7」　　nawle>nâle [nɔ́:lə]「へそ」

⑲ liz と siz の z は s とつづる。

ik liz>ik lis [lIs, le:s]「私は横たわる，横たえる」

ik siz>ik sis [sIs, se:s]「私は言う」

⑳ 長母音を含む語幹をもつ動詞の過去形の dd, tt は d, t とつづる。

ik praatte>ik prate [prá:tə] (← prate [prá:tə])「私は話した」

ik rêstte>ik rêste [rɛ́:stə] (← rêste [rɛ́:stə])「私は休んだ」

上記の①から⑳までの規則は合成語や派生語にも適用される。

参考文献

(前回 (1) に掲載したものを除く)

Anglade, J. 1966. *Petit manuel de frison moderne de l'ouest.* Groningen. Wolters.

Boelens, Krine. 1952. "Hwannear wurdt de skreaune 'r' yn it Frysk útsprutsen?". *Us Wurk : Tydskrift foar frisistyk* 1. 45-48, 59-64.

Dyk, Siebren. 1987. "Oer syllabisearring". *CO-FRISICA* III. 117-141.

Hoekstra, Jarich. "t-Deletion before suffix-initial *st* in Modern West Frisian". *Friserstudier* IV/V. 43-56.

Sjölin, Bo. 1988. (書評) "Pieter Meijes TIERSMA, Frisian reference grammar. Dordrecht, Holland/Cinnaminson, USA. Foris Publications 1985, 157 blz.". *Leuvense Bijdragen* 77. 108-112.

Ten Cate, Abraham P./Peter Jordens. 1990. *Phonetik des Deutschen : Eine kontrastiv deutsch－niederländische Beschreibung für den Zweitspracherwerb.* Dordrecht/Providence RI. Foris.

Van der Meer, Geart. 1988. "In 'achterheaksel' {SK} en it leksikon". Yn: Siebren Dyk/Germen de Haan (útj.). *Wurdfoarried en wurdgrammatika : In bondel leksikale stûdzjes.* Ljouwert. Fryske Akademy. 121-135.

Van der Meer, Geart. 1990. "Ta de ferlytsingswurden en tiidwurden op *-je". Us Wurk : Tydskrift foar frisistyk* 39. 49-63.

Van der Meer, Geart/Tseard de Graaf. 1986. "Sandhi phenomena in Frisian". Yn: Henning Andersen (ed.). *Sandhi phenomena in the Languages of Europe.* Berlin/New York/Amsterdam. Mouton, de Gruyter. 301-328.

Van Loey, A. 1970[8]. *Schönfelds Historische grammatica van het Nederlands.* Thieme. Zutphen.

Visser, Willem. 1988a. "In pear klitisearringsferskynsels yn it Frysk". Yn: Siebren Dyk/Germen de Haan (útj.). *Wurdfoarried en wurdgrammatika : In bondel leksikale stûdzjes.* Ljouwert. Fryske Akademy. 175-222.

Visser, Willem. 1988b. "Wêrom't progressive assimilaasje yn it Frysk net bestiet". *Tydskrift foar Fryske Taalkunde.* 4. 1-20.

Visser, Willem. 1989. "Oer ferlytsing nei felaren". Alex M. J. Riermersma/Trinus Riemersma/Willem W. Visser (bes.). *Frysk & Frije Universiteit* (1949-1989). Amsterdam. VU Uitgeverij. 193-202.

Visser, Willem. 1992. "Oer -je en -JE. De morfology en fonology fan it einichste wurddiel *-je". Tydskrift foar Fryske Taalkunde.* 7. 69-87.

Visser, Willem. 1993. "In kwestje fan haastjen: oer hoe't yn it Frysk de sekwinsjes *-sts-* en *-tjə* mijd wurde". *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 8. 123-130.

あとがき

本稿は「西フリジア語の音韻と正書法 (1)」(北海道大学文学部紀要 44-1 (第 85 号). 1995. 37-81) の続編である。筆者は現在，西フリジア語の文法記述に取り組んでおり，音韻と正書法の部分を独立させて，あらかじめ発表することにした。

執筆にさいしては簡明さを心がけ，小見出しを多く設けるとともに，歴史的背景や理論的な議論，それに方言やオランダ語，ドイツ語，英語など他のゲルマン語との比較にかんする部分は文字サイズを小さく印刷して示した。これによって概観がつかみやすくなると同時に，理解をさらに深めることが容易になるものと願っている。内容的には西フリジア語学の水準が反映され

るように，現在の時点までの研究成果を積極的に取り入れた。また，オランダ政府奨学金 (NUFFIC) の援助による 1993 年 9 月からの 1 年間にわたるフローニンゲン大学フリジア語学科での調査の成果を織り込んだ。帰国後は北海道大学大学院文学研究科独文学専攻での独語学演習でとりあげ，学生と意見を交換する機会をもった。有益な意見を与えてくださった博士課程在学中の荻原達夫君，林馨子さん，研究生の湯浅英俊君，学部生の中村隆二君にお礼を申し上げる。

フローニンゲン大学での滞在期間には下記の方々にお世話になった。まず，指導教授のデ・ハーン教授 (prof. dr. Germen de Haan) には 2 週間に一度，1 時間半ほど面談の機会を設けていただき，筆者の研究全般にわたって懇切なご指導を賜わった。また，同じくフリジア語学科のフリエス博士 (dr. Oebele Vries) とブレーケル博士 (dr. Pieter Breuker)，言語学科のデ・グラーフ博士 (dr. Tseard de Graaf)，それにフリスケ・アカデミー (Fryske Akademy) のフクストラ氏 (drs. Jarich Hoekstra) には，当時できあがっていた原稿のすべての部分を通読していただき，数々の貴重なご指摘を頂戴した。また，「割れ」にかんしてはフローニンゲン大学のファン・デル・メール博士 (dr. Geart van der Meer) に資料の提供を受けた。フリジア語教育についてはフリースラント州教育委員会 (MSU) のフリジア語セクションのゾンダハ氏 (drs. Koen Zondag) にお世話になった。最後に，フリスケ・アカデミーのヨーンスマ所長 (dr. Lammert G. Jansma) には，筆者のために同アカデミーに机を用意していただくなど，研究の便宜をはかっていただくとともに，帰国後には筆者を独協大学の兒玉仁教授に次いで同アカデミーの会員に迎えてくださった。上記の方々に厚く感謝の意を表したい。

＊本稿 ((1)を含む) は平成 7 年度文部省科学研究費補助金による研究成果の一部である。研究課題：「大陸部北海沿岸の西ゲルマン語相互の言語接触と類型論的特徴の変化」．奨励研究(A)．課題番号 07710346